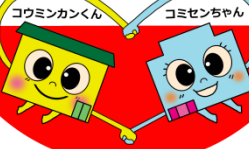


ひろプロ

広島版 学びから始まる地域づくりプロジェクト



広島版

学びから始まる 地域づくりプロジェクト コーディネーター

ハンドブック

令和元年度広島県立生涯学習センター調査研究成果報告書



ぼれっとひろしま

広島県立生涯学習センター



はじめに

少子高齢化・人口減少の進展など社会環境の大きな変化を受けて、生涯学習や社会教育における学習成果を「地域づくり」の実践につなげていくことに対する社会の期待が高まってきています。

広島県内においても、「公民館」^{※1}のこれまでの在り方を見直し、学びの成果を地域づくりに積極的に活用しようとする様々な取組が各地で進んできています。

このような動きは、今後、生涯学習や社会教育の成果が、地域住民のつながりを深め、「学び」を地域課題の解決につなげていくことにより、人々の暮らしと社会の発展に大きく貢献することができる可能性を有していることを示唆しています。その可能性を顕在化させ、活発な取組が展開されるよう、今後の生涯学習・社会教育に期待される施策や方向性を明らかにしておくことが求められます。

「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」（略称：「ひろプロ」^{※2}）は、こうした広島県内での「公民館」の職員の皆さんの様々な創意工夫や熱意による、元気な取組の具体的な仕掛けやノウハウ、また、実践から生み出された知恵やアイデアを集積することにより、オリジナルの「広島モデル」を実証開発、その成果を県内外に波及させていくことを目指し、当センターの研修・調査研究事業の一環として、その歩みの一歩を踏み出したものです。本年度（令和元年度）に実施した試行の成果を精査・検証し、次年度（令和2年度）から本格的に本事業を開始します。

地域住民の主体的な「学び」から始まる地域づくりのプロジェクトを多様な側面からコーディネートする公民館等職員の皆さんが、「ひろプロ」コーディネーターとして、この「ハンドブック」を積極的に御活用いただくことで、地域住民の主体的な“学び”や“行動”が生まれ、各地の「公民館」の活動が活性化し、ひいては、地域づくりに主体的に参画する人づくりの機運が醸成されていくことを願っています。

最後になりましたが、本調査研究及びハンドブックの作成にあたり、御支援・御協力をいただきました各地の担当職員や地域の皆様に改めて厚く御礼を申し上げます。

令和2年3月

広島県立生涯学習センター所長

※1 「コミュニティセンター」等の公民館類似施設を含みます。（以下、同じ）

※2 略称「ひろプロ」、以下、同じ。

このハンドブックの使い方

本ハンドブックは、広島県立生涯学習センターがこれまで培ってきた、生涯学習・社会教育の実践に関する知見の集約はもとより、公民館等職員、社会教育教育分野の研究者や実践者、行政担当者など、様々な立場の方からの情報や御意見を集約し、公民館等職員の学びを通じた地域づくりに関するコーディネート能力の向上を意図して、より多くの市町や現場の公民館等で活用されるよう作成したものです。

例えば、掲載している個別のモデル事例や実践事例集は、公民館等において導入可能な様々な手法を知っていただくことを意識して作成しました。

御覧の皆様には、次の用途別の使用方法を参考にして御活用ください。

● **プロジェクトの背景となる基本的な考え方・理論を学びたい方へ**

→ 第1章 「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」の実施にあたって

● **プロジェクトの概要やコンセプトを知りたい方へ**

→ 第2章 「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」の概要

● **「分析シート」や「企画シート」の作成について学びたい方へ**

→ 第3章 企画・実践のヒント

● **企画・実践のモデル事例を参考としたい方へ**

→ 第4章 開発モデルの試案

● **県内の公民館等の取組事例の情報を得たい方へ**

→ 第5章 実践事例集

● **企画書等の様式（テンプレート）を探している方へ**

→ 参考資料・情報



ハンドブックに掲載の資料・データは、広島県立生涯学習センターのホームページで公開しており、どなたでも活用いただけるようになっています。企画書の様式（テンプレート）や「ひろプロ」のアイコン（「ひろプロ」マーク、コウミンカンくん&コミセンちゃん）等も自由にダウンロードできますのでぜひ御活用ください。

「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」 コーディネーターハンドブック 目次

はじめに

このハンドブックの使い方

第1章「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」の実施にあたって	1
第2章「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」の概要	7
1 こんなプロジェクトです	9
広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業（事業説明図）	
広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」イメージ図	
2 コンセプト	13
3 「ひろプロ」で取組を期待するテーマ	15
第3章 企画・実践のヒント	19
1 コーディネーターの役割	21
2 地域を知ろう（分析シート）	22
3 企画立案しよう（企画シート）	25
第4章 開発モデルの試案	31
1 地域の未来像を共有するための学びの場づくり	35
2 地域の人材による家庭教育支援	37
3 地域の人材による地域学校協働活動の推進	38
4 地域の人材による社会的包摂の実現	40
5 地域防災・減災の仕組みづくり	41
6 その他（地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成）	42
第5章 実践事例集	45
<参考資料・情報>	87
「ひろプロ」マーク	89
「ひろプロ」分析シート（様式）	90
「ひろプロ」企画シート（様式）	91
「ひろプロ」報告シート（様式）	92
広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業実施要項（案）	93
調査研究の概要	103

第1章 「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」の実施にあたって



「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」の実施にあたって

広島県立生涯学習センター生涯学習推進マネージャー
広島修道大学 教授 山川 肖 美



1 少子高齢化を伴う人口減少社会を背景とした未知の課題への遭遇

政府統計によると2020年2月現在の日本の人口は1億2601万人です。

では、2100年の日本の人口は何人でしょうか。国の推計 (<http://www.mlit.go.jp/commo/n/000135837.pdf>) で上限6500万人、下限3700万人、つまり、80年後には日本の人口は現在の半分以下になる予想です。

加えて、1960年から100年間の人口増減が9250万人からスタートし、2060年では、8674~9894万人(同上)で収束、すなわち、1960年生まれの人が100年時代を生きると、人生の前半で経験した人口規模を、人生の後半で再び経験します。これに対して、2000年に生まれた人は、人生100年時代の中で、ただひたすら人口が減少していく社会を背景に、年次進行とともに、未知の時代・未知の課題に遭遇することになります。

つまり、2000年以降に生まれた人は、先人が経験していない人口規模を背景とした社会を生き抜くことになります。次々と生起してくる予測不可能な未知の課題に対して、何を踏襲し、何を更新すべきか、改めて学びを通して見つけ出し、一人ひとりが行動することが必要になります。

2 未知の課題に向き合う場としての地域社会

未知の課題に対応すべく、私たち人類は、SDGsのような持続可能な社会であり続けるために全世界的に共有すべき達成目標を持つという知恵に至りました。SDGsとは、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)の略で、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。
(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>)

それでは、そのグローバルな目標を意識しながら実際に課題解決に挑む場はどこでしょうか。それは、私たちが住む日常であり、家庭や職場、地域生活の営みの中にあります。貧困の問題(1)、健康・福祉の問題(3)、教育の質の問題(4)、水やエネルギーの問題(6、7や12)、まちづくりの問題(11)など地域で向き合うべきあらゆる課題がこ



こには掲げられています。

本書においては、地域の課題解決がグローバルな課題解決に繋がっていくこと、グローバルな課題解決は地域での課題解決の積み重ねであることを意識してもらうことを意図して、今回取り組むプロジェクトの企画シートにアイコンとして付しています。

3 未知の課題に向き合う地域社会に対して社会教育ができること

「人口減少社会において、関係者の連携と住民の主体的な参画のもと、新しい地域づくりを進めるための学習・活動の在り方を中心に、今後の社会教育の振興方策について検討」するように諮問をされた第9期中央教育審議会生涯学習分科会では、平成30年12月に「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」と題する答申を公表しました。その中には、こう書かれています。

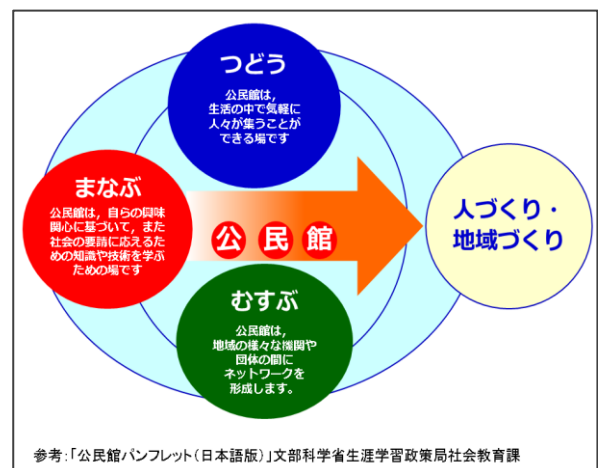
「人口減少や高齢化をはじめとする多様な課題の顕在化や、急速な社会経済環境の変化を受け、今後、我が国の地域社会においては、住民主体でこれらの課題や変化に対応することが求められるとともに、地域固有の魅力や特色を改めて見つめ直し、その維持発展に取り組むことが期待されている。こうした中で、地域における社会教育には、一人一人の生涯にわたる学びを支援し、住民相互のつながりの形成を促進することに加え、地域の持続的発展を支える取組に資することがより一層期待されていると言える。」

そして、そのためには、

「公民館、図書館、博物館等の社会教育施設には、地域活性化・まちづくりの拠点、地域の防災拠点などとしての役割も強く期待されるようになっており、住民参加による課題解決や地域づくりの担い手の育成に向けて、住民の学習と活動を支援する機能を一層強化することが求められるようになってきている。」こと、「社会教育施設の設置・運営についても、複合的な課題により効果的に対応するため、社会教育行政担当部局とまちづくり、福祉・健康、産業振興等の他の行政部局、教育機関、NPO、企業等の多様な主体との連携を強化することが欠かせない状況となっている。」こと。

つまり、少子高齢化を伴う人口減少社会や社会経済環境の変化とともに出てくる諸課題に対して、一人一人への学びの支援を通じて、相互に応援し合うつながりをつくり、主体的・協働的に地域の諸課題の解決に向き合う人を育むことが、今後の社会教育のあり方として提案をされています。

地域で社会教育を支えてきた公民館は1949年に制定された社会教育法とともに普及・発展してきました。70年の時を経ても変わらぬ機能は、「集う」「学ぶ」「結ぶ」ことです。



このことから、社会教育には、学びをベースに人を育て、人と人をつなぎ、そのプロセスと結果において地域をよくすることが元来の役割であることが確認できます。

4 学びから始まる地域づくりのために公民館等職員ができること

では、元来からのこうした役割を、今そしてこれからの大きな社会変動・時代変化の中で公民館あるいは公民館類似施設の職員さんはどのように果たすことができるのでしょうか。

広島県内には都市部もあれば中山間地域もあります。中山間地域でも、利便性の良いところとそうでないところがあります。また、まちの成り立ちを振り返ると、現在の地域・地区割りと異なる境界線や関係性を持っているところもあるでしょう。こうした歴史的・文化的・地理的な背景の違いからそれぞれに固有の地域特性ができていくことから、地域で優先的に取り組むべき課題も様々でしょう。

こうした異なる地域特性・地域課題があったとしても、社会教育施設としての公民館等職員が果たすべき共通の使命は、“学びによる支援”であり、“学びに対する支援”です。学びによる支援では、学習プログラム開発がその柱になります。学びに対する支援とは、学ぶ意欲のある人や学ぶ必要性を感じている人、学び続けている人に対する支援がその柱になります。

本ハンドブックは、人口減少社会を背景に地域の自立と協働が求められる時代における公民館等職員による“学びによる支援”と“学びに対する支援”の両方を包摂して地域ベースで展開されるものを「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」として応援するために作成したものです。

5 広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』における2つのアプローチ

本プロジェクトでの具体的な応援対象は、次項の図でいうと「アプローチA」と「アプローチB」に大別されます。1つは、開発された学習プログラムの成果の蓄積がどのような未来を導き出すものになるのか、課題と資源を把握した上で未来像を描くための学びの場づくりを想定しています（アプローチA）。例えば、地域の未来を考え・共有するワークショップやそうしたワークショップに基づいてプロジェクトを提案する講座、その地域の諸計画や行動計画を立案していくための講座、市町全体の方向性を総合計画・総合戦略等を通して理解した上で当該地域の未来を構想するワークショップ等さまざまに想定できます。

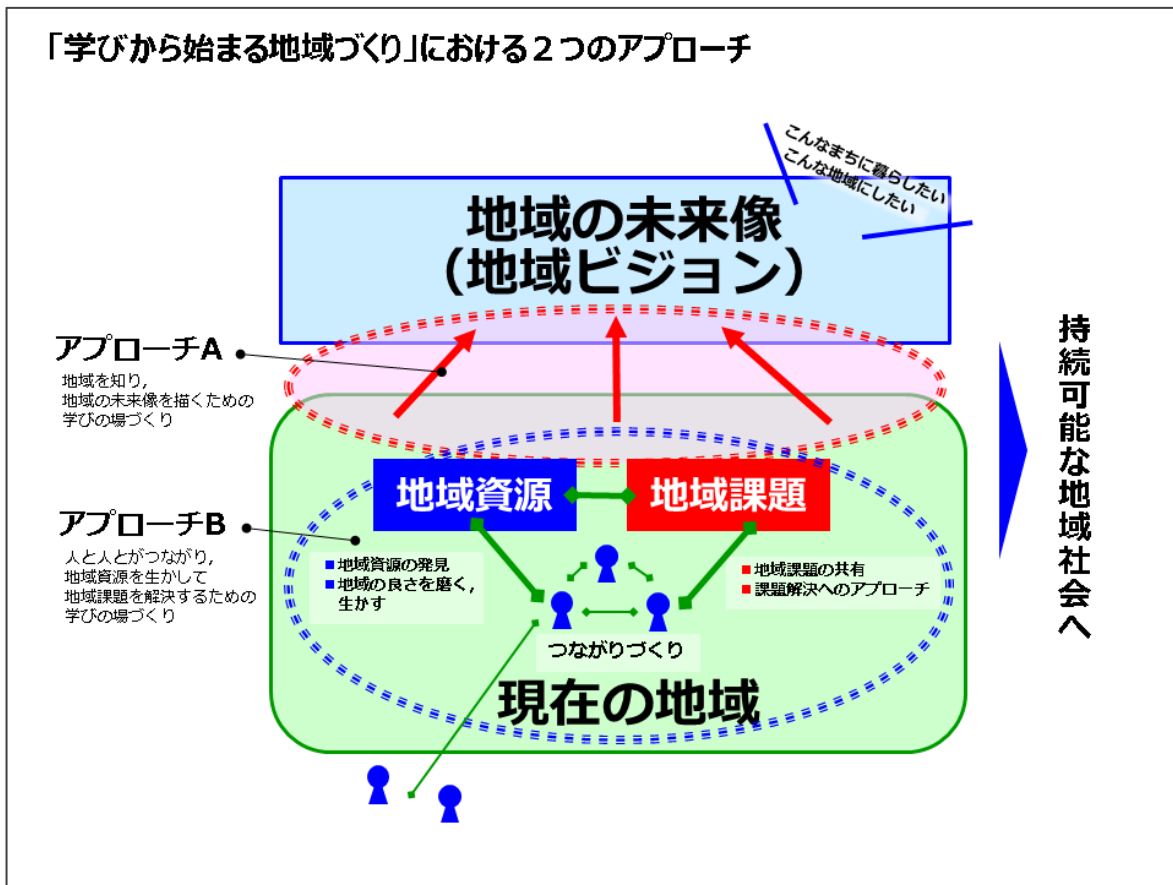
もう1つには、地域の課題を地域の資源をもって解決していく過程で、人と人がつながることを志向する学習プログラムの開発です（アプローチB）。別の言い方をすれば、地域の課題の解決をイメージしつつ、地域資源を磨く学習プログラムとも言えます。地域にはそれぞれに抱えている課題があります。それを参加者間で共有した上で、課題解決にぴったりの地域の資源（ひと・こと・もの）を生かしながら解決していく講座になります。地域の資源で不足する部分は地域の外に求めてもよいでしょう。地域の外の人々の感じ方や見え方は、地域の中にいる人と異なる場合があります。地域課題の解決に協力をいただきつつ、当該地域について地域在住者とは異なる見方に積極的に触れましょう。加えて大事なことは、当該講座の実施を通して人と人がつながることです。実施の段階だけでなく企画の段階から繋がる講座を考えてみるのもよいでしょう。この「アプローチB」に含まれる講座は、「アプローチA」よりももっと多彩で多様なものになるでしょう。なぜならば、地域の課題は共通していても、地域の資源は様々ですし、その磨き方も様々だ

からです。課題と資源の組み合わせを考えるだけで無限にあることが想像できるでしょう。この無限にありそうな講座を包括していくアプローチを取ることもできます。「みんなの尼崎大学」（兵庫県尼崎市）や「奈良ひとまち大学」（奈良県奈良市）などはその好例と言えます。

「アプローチB」の前提としては、「アプローチA」によって地域の未来像が共有されていたりすでにある地域計画で地域の方向性が提示され共有されていたりすることが理想的です。なぜなら、地域の課題を解決していくことが地域の未来にどのようにつながるのかをイメージしながら「アプローチB」としての学習プログラム開発ができるからです。

教育基本法第三条で、「生涯学習の理念」として、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」ことが掲げられています。学びとそれを生かすことが、“だれでも” “いつでも” “どこでも” 保障されているのが生涯学習社会です。とすれば、学びの場や活動を地域づくりの入り口にするのはすべての人が接近可能な入り口をつくることになります。そしてその入り口から地域内外の多様な人が入り一堂に会し、交じり合うことで地域づくりのプラットフォームがあらこちらに形成されるのではないのでしょうか。

本書で応援をしたいのは、このような学びから地域づくりへの人の出入り口となるような学習プログラムの開発と、これを通して形成される学びによる地域づくりのプラットフォームづくりをされようとする社会教育・生涯学習施設・機関（公民館やコミュニティセンター、まちづくりセンターなど）の職員さんと当該職員さんと関わりのある人たちです。



第2章 「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」の概要

1 こんなプロジェクトです

- 住民の主体的・協働的な「学び」から始まる地域づくりのプロジェクトを公民館等職員が多様な側面からコーディネートする事業です。
- 地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である「公民館」が拠点となり、行政（他部局）や教育機関、企業、NPO等の多様な主体と連携・協働して、多様な地域住民が主体的に地域づくりに参画できる社会教育・生涯学習のプロジェクト開発を目指します。
- 公民館等職員の「コーディネート力」の向上を図るとともに、県及び市町の「社会教育主事」がその役割を発揮し、専門性（有用性）を生かす仕組みを取り入れます。

人口減少時代の新しい地域づくりを進めていくためには、住民が主体的に地域の課題や将来像を共有し、解決に向けて地域でともに学び、つながり合い、その成果を社会貢献や地域参画の活動につないでいくことが重要です。

地域住民の最も身近な学び・交流の拠点である公民館等の社会教育関係施設は、住民の主体的・協働的な学びを通じた「地域課題解決」の取組を様々な側面から支援・コーディネートする役割がより一層期待されています。

複雑多様化する社会の中で、解決すべき課題は様々な背景や要因と絡み合っており、既存の組織が独自の使命のもとで、単独で業務を遂行し、有効な成果を生み出すには限界があります。

限られた地域の資源を有効に活用するとともに、従来の「自前主義」から脱却し、「公民館」が地域の拠点となって、教育行政のみならず、まちづくり、福祉、健康、防災、産業振興等の他の行政部局や教育機関、NPO、企業等の多様な主体と連携・協働し、ネットワーク型の視点で取組を進めていくことが必要不可欠です。

一方、現場の「公民館」はどうでしょうか。人口減少・高齢化など、急速な社会環境の変化のなかで、事業への参加者や地域活動の協力者（担い手）が高齢化・固定化しているといった悩みが多く聞かれ、「公民館」に「高齢者の趣味・教養のたまり場」といったイメージが広がっている側面があることは否めません。高齢者が気軽に集える場としての「公民館」の機能は今後も多くの地域でますます必要とされる一方で、多様な世代の住民の参加や世代間の交流が求められる地域もあることでしょう。

また、公民館等職員の皆さんの様々な創意工夫により、多様な取組があちこちで行われているものの、学びの成果を地域課題解決の活動にまでつなげる具体的な仕掛けやノウハウが蓄積されておらず、取組の成果が住民にまで届いていないといった課題もあります。

こうした現状を踏まえ、「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」は、広島県立生涯学習センターの調査研究・研修事業の枠組みを活用し、地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である「公民館」が、多様な主体と連携・協働して地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じた地域課題解決の活動を促進するための拠点として重要な役割を果たすための支援事業として、令和元年度から試行的にスタートしました。

広島県内各地の「公民館」からさらに元気な取組が発信できるよう、公民館等職員の皆さんと、社会教育における専門的教育職員である、県及び市町の「社会教育主事」がその役割・専門性を発揮して一緒に汗をかきながら、このプロジェクトを進めていきたいと考えています。

「ひろプロ」の未来は未知数です。様々な垣根を乗り越えて、私たちと一緒に、「オール広島」・「オール地域」で、「学びから始まる地域づくり」をテーマに、新しい価値を創造していきましょう。

広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」(ひろプロ) 支援事業

地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である「公民館」(*)が、多様な主体と連携・協働して地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じて地域課題解決の活動を促進するための拠点として重要な役割を果たせるよう支援する。

趣旨

※「公民館」は、「コミュニティセンター」等の公民館類似施設を含む。

- 「高齢者の趣味・教養のたまり場」というイメージが定着し、利用が活性化していない。(利用者の減少・固定化)
- 多様な取組が行われているが、学びの成果を地域課題解決につなげる具体的な仕掛けやノウハウの蓄積がない。

現状と課題

▶ 市町の取組格差あり

目指す姿

- 地域の多様な世代の人々(機関・団体等を含む。)が「公民館」に集い、豊かなつながりや学び合いが生まれている。
- 「公民館」がコーディネート機能を発揮し、住民の主体的な学びを通じて地域課題解決の取組を促進するための地域ネットワークの中核拠点となっている。

▶ 市町の現状・課題に応じた県の支援

新たな取組の概要

具体的なイメージ

● 住民の主体的な学びを通じて地域づくりの推進に向けて、社会や地域の課題解決と学びをつなげる事業モデルを実証開発。

- 「ひろプロ」のコンセプト
- ① 広島モデルを実証開発 (オール広島)
 - ② 実践の拠点は「公民館」
 - ③ アレンジ自由・成長性・発展性
 - ④ 体験型・参加型・参画型
 - ⑤ 連携・協働・共創

● 各地域の実態や課題に応じたプロジェクトをコーディネートできる人材(「公民館」職員等)を育成。

● 地域資源(社会資源)である「公民館」を活用し、行政(首長部局)や学校・大学・企業・NPO、地域の関係機関・団体等の多様な主体と連携・協働しながら、地域住民が主体的に参画できる社会教育・生涯学習のプロジェクトとする。

● 県及び市町の「社会教育主事」がその役割を発揮し、専門性(有用性)を生かす仕組みを取り入れる。

▶ 市町では対応困難な県域でのモデル的取組

■ 「ひろプロ」の実証開発

- ◆ 地域の未来像を共有するための学びの場づくり
地域づくりワークショップ、まちづくり学校、まちづくりカフェ、地域のお宝発見、公民館エリア探検、ふるさとの未来・再考！フオアロ、これからの○○地区を考える会、未来づくりトークセッション…
- ◆ 地域の人材による家庭教育支援
子育てサロン・おしゃべりカフェ(地域の居場所づくり)、子育て講座(「親の力」をまねばあひろ学習プログラム講座)等)、家庭教育支援チームの組織化、子育てサポート・フアシリテーター等の地域の人材育成、子育てに役立つ情報の提供・啓発…
- ◆ 地域の人材による地域学校協働活動の推進
公民館等を拠点とした体制整備・仕組みづくり、学校支援活動(学習支援、学校環境整備、登下校の見守り等)、放課後子供教室、地域未来塾、地域の人材発掘・育成(研修、人材バンク)、地域住民の理解促進・ビジョン共有…
- ◆ 地域の人材による社会的包摂の実現
地域子供食堂、○○公民館カレーの日、エンプラ・サルカエ、できること持ち寄りワークショップ、地域支えあいプロジェクト、セーフティネット学習会、地域支え合いマップづくり…
- ◆ 地域防災・減災の仕組みづくり
関係組織のネットワーク化、避難所運営の仕組みづくり、防災ワークショップ、防災フェスタ、防災運動会、子供防災意識養成講座、避難所開設訓練、防災「ひろしまプロジェクト」, 「みんなで防災」一斉地域防災訓練、ハザードマップ作成…
- ◆ その他(地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成)
若者やシニア世代の地域参画、地域行事活性化・地域の担い手育成、高齢者の健康・生きがいづくり、介護、多世代交流、グローバルリーダー育成、伝統文化継承、ふるさと教育、空き家対策、婚活支援、地域ブランド・特産品開発、コミュニティビジネス…

■ 学びを通じて地域づくりに関するコーディネートカへの向上(「ひろプロ」コーディネーター研修、モデル実践の支援)

- 「ひろプロ」の企画・調整・運営を務める職員対象の研修を実施
- 既存の「地域課題対応研修支援(訪問型研修)」の枠組を活用(拡充)し、市町の現状・課題に応じて、モデル実践を支援
- 「『ひろプロ』コーディネーターハンドブック」開発(調査研究)
- 参加促進・成果発信・「公民館」のイメージ向上
事業成果発信による、新たな参加者層の巻き込み
- アイコン・イメージキャラクター等開発



これまで取組の

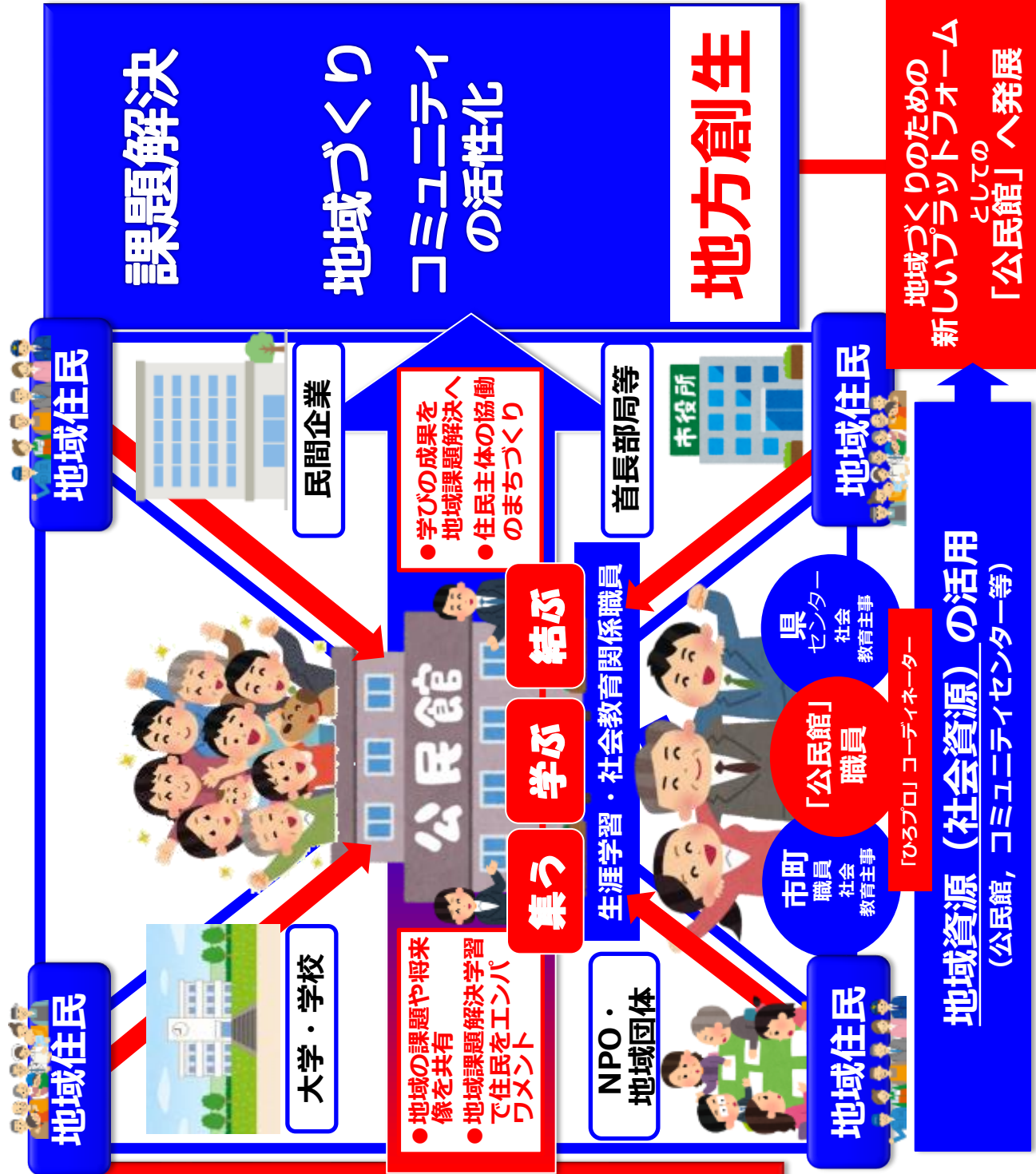
● 公民館等活性化モデル事業 (H26～)
子供を含めた地域住民が公民館等に愛着と理解が持てるような活動に対して助成(企画の支援)【主催：県公民館連合会】
→ 認知度向上・活用促進・情報充実

● 訪問型研修(地域課題対応研修支援) (H22～)
各市町の課題に応じた研修の実施について、県の社会教育主事が訪問して支援
→ 研修が必要な市町への働きかけ

● 公民館等取組事例集 (H28～)
公民館等の取組事例を収集し、HPで情報提供
→ 新たな好事例の開発・支援

社会課題 地域課題

少子高齢化・人口減少
(人生100年時代)
地域の担い手不足
防災減災
環境・福祉
産業・雇用
家庭教育支援
学校支援
貧困・教育格差
伝統文化継承
グローバル化...



課題解決
地域づくり
コミュニティ
の活性化
地方創生

地域づくりのための
新しいプラットフォーム
としての
「公民館」へ発展

地域資源 (社会資源) の活用
(公民館, コミュニティセンター等)

※「公民館」は、「コミュニティセンター」等の類似施設を含む。

2 コンセプト

「ひろプロ」のコンセプト

- 1 広島モデルを実証開発（オール広島）
- 2 実践の拠点は「公民館」
- 3 アレンジ自由・成長性・発展性
- 4 体験型・参加型・参画型
- 5 連携・協働・共創

1 広島モデルを実証開発（オール広島） ～広島県の「公民館」が面白い～

広島県の「公民館」では、関係職員の皆さんの様々な創意工夫や熱意により、多様な取組が幅広く行われています。「ひろプロ」は、こうしたたくさんの県内の「公民館」の元気な取組の具体的な仕掛けやノウハウ、また、実践から生み出された知恵やアイデアを集積することにより、オリジナルの「広島モデル」を実証開発、その成果を県内外に波及させていきます。今、広島県の公民館が熱い！面白い！広島県の元気な公民館の実践を「オール広島」で広げ、発信していきましょう。

2 実践の拠点は「公民館」 ～“公民館”も“コミセン”も～

地方行財政改革の進展等に伴い、“公民館”が、コミュニティセンターやまちづくりセンター、自治振興センター等の“公民館類似施設”に移行する動きが全国的に見られます。しかし、これらの施設は、持続可能な人づくり・つながりづくり・地域づくりを実現するための学びや活動の“場”であることに変わりはありません。「ひろプロ」は、社会教育法に規定された“公民館”と“コミセン”等の“公民館類似施設”の線引きをすることなく、住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点としての地域資源（社会資源）である「公民館」の機能に焦点を当て、地域住民が主体的・協働的に地域づくりに参画できる社会教育・生涯学習のプロジェクト開発を目指します。

3 アレンジ自由・成長性・発展性 ～地域オリジナルの未来を描く～

地域課題の解決に、こうすれぱうまくいくといった“唯一絶対の正解”や“統一的な処方箋”はありません。それぞれの“答え”はそれぞれの地域の中にあるはずで、大切なのは、その地域ごとの“答え”を地域住民とともに導き出していく「プロセス」です。モデルは、あくまでこれまでに実践された取組のポイントを「見える化」「汎用化」して分かりやすく提示した「ヒント」に過ぎません。このとおりに行う必要は全くありません。地域固有の魅力や特色、

また、現状や課題を分析し、その地域ならではの未来を描ける地域オリジナルの形にコーディネートしてください。PDCAサイクルを循環させながら、地域オリジナルの形にアレンジし、オリジナルのプロジェクトの成長・発展を実現していきましょう。

4 体験型・参加型・参画型 ～住民の主体性や当事者性を育む～

住民の主体性や協働性を育むためには、住民の「思い」や「気付き」を引き出し、地域全体で共有していくことが大切です。「どう動かすか」ではなく、「どう一緒に動くか（動きたい気持ちになるか）」がキーポイントです。住民それぞれが自分たちの思いや意見、これまでに培ってきた知恵や経験を交流し、学んだ成果を自然に生かしていきたくなるような、「体験・参加・参画」型のスタイルをベースに進めていくことが有効です。何度も顔を合わせて話し合ったり、一緒に汗をかいて活動したりする中で、共感や信頼関係が生まれ、地域が少しずつ動き始めます。また、地域を支えたり、学びやつながりを必要としたりしているのは、地域活動に積極的に参加している人だけではありません。仕事や家事、子育て、介護、勉学等により時間的・体力的・経済的な制約がある人を始め、障害者、外国人、困難を抱える人々など、全ての住民が孤立することなく、参加できるような工夫を取り入れましょう。

5 連携・協働・共創 ～プラットフォームとして機能する場づくり～

「ひろプロ」では、様々な垣根を乗り越えて、「学びから始まる地域づくり」をテーマに、新しい価値を創造していきたいと考えています。そのためには、従来の「自前主義」から脱却し、「公民館」が拠点となって、教育行政のみならず、まちづくり、福祉、健康、防災、産業振興等の他の行政部局や教育機関、NPO、企業等と多様な主体と連携・協働し、ネットワーク型の視点で取組を進めていくことが必要です。地域内外の多世代・多目的・多様なたくさんの人や組織が「公民館」に乗り入れ、「連携・協働・共創」を実現できるような、オープンでフラットなプラットフォームとして機能する場づくりを創造していきましょう。

大竹市立玖波公民館「地域ジン 学びのカフェ」

(平成 26 年度文部科学大臣表彰優良公民館表彰・最優秀館)

公民館のイメージアップを図る「おしゃれな学び空間」として、「学びのカフェ」を創設。自由に語り合うカフェタイムを設けるなど、参加者の交流を図り、住民同士の絆を深めた。また講座内容にも工夫を凝らし、タイムリーで魅力的な講座を企画し大幅に刷新。若者や中学生など、今まで来館したことがない参加者が激増し、まちを元気にする「地域ジン」が誕生。毎月の講座の手伝いととも、オリジナルTシャツ、テーマソング、地元の飲食店マップ「見知らんガイド」など、次々と作成。その後、空き古民家を利用した「古民家 de カフェ」や、地域総出演のファッションショー「くばコレ」をはじめ、「KUBA シネマ」開催など事業の発展を見せている。



広島市古田公民館「このまちに暮らしたいプロジェクト」

(平成 30 年度文部科学大臣表彰優良公民館表彰・最優秀館)

少子高齢社会、人口減少社会等を見据え、中学生を主体に地域住民など多世代が連携し、地域課題に対応するまちづくり活動に取り組む事業である。古田中学校の生徒と古田地区住民が一緒になって、30年後の地域の暮らしを考え、行動するため、平成 25 年度に古田公民館が立ち上げた。中学生の発案で「みんなが幸せに使える公園」をテーマにワークショップや体験イベントを実施するなど、公民館が多世代の居場所づくりの拠点となっており、これらの学習や活動を通して、社会に主体的に関わり、行動する人材が育まれている。地域から愛され、地域とともに成長する公民館を目指し、住民が集い、学び合い、結び合う場となるよう事業が展開されている。



3 「ひろプロ」で取組を期待するテーマ

1 地域の未来像を共有するための学びの場づくり

2 地域の人材による家庭教育支援

3 地域の人材による地域学校協働活動の推進

4 地域の人材による社会的包摂の実現

5 地域防災・減災の仕組みづくり

6 その他

地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成

「ひろプロ」では、「学びから始まる地域づくり」の実証開発を進めます。日常生活の中で「困ったな」と感じることや、「地域社会がこう変わればもっと暮らしやすくなるのにな」と思うことは、広く「地域課題」と捉えられます。また、住民にとって身近で目的を共有しやすいテーマを設定し、それぞれが持つ知恵や経験を出し合いながら、楽しく、やりがいをもって取り組んでいけるような学びや活動の機会を作ることも大切です。

これから、「ひろプロ」で取り組んでいきたい地域課題（テーマ）として、上の6つの切り口で、課題解決に向けた取組のヒントや、想定される取組の具体例を整理しました。「公民館」で実際に取り組まれた実践事例の情報をぜひお寄せください。

1 地域の未来像を共有するための学びの場づくり

学びの成果を生かした地域づくりを進めていくためには、住民自らが地域の課題や未来像を共有し、当事者意識を持って、学びの成果を実感しながら地域課題の発見から解決に至るまで共通理解の中で活動に取り組んでいくプロセスが重要です。例えば、課題の発見・共有・解決の三つの段階を意識しながら、地域の未来像を構想し、共有化した上で、参加者が協働して目標達成に向けて取り組み、解決を目指すといったプロセスなどが考えられます。活動を振り返り、次に生かす計画・実践・評価・改善のサイクル（PDCA サイクル）を「見える化」しながら進めることで持続可能なプロジェクトが実現できます。

また、次世代を担う子供・若者が、地域での学びを通じて地域課題やその解決方法を様々な世代の住民と共に実践的に学ぶことは、持続可能な地域づくりや、地域への誇りや愛着を持ち、自分自身が関わって地域を良くしていこうとすること（シビックプライド）にもつながります。

具体的なテーマ例

地域づくりワークショップ、まちづくり学校、まちづくりカフェ、次世代未来づくりサロン、地域のお宝再発見プロジェクト、ふるさと学習、このまちに暮らしたいプロジェクト、公民館エリア探検、中高生「まちづくりスクール」、地域まるごと〇〇大学、〇〇井戸端会議、地域のお宝発信隊、地域ミステリーツアー、ふるさとの未来・再考！フォーラム、これからの〇〇地区を考える会、未来づくりトークセッション、地域課題チャレンジ講座、私たちの〇〇公民館プロジェクト…

2 地域の人材による家庭教育支援

核家族化や地域社会のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が孤立してしまうなど、家庭教育が困難な現状が指摘されています。

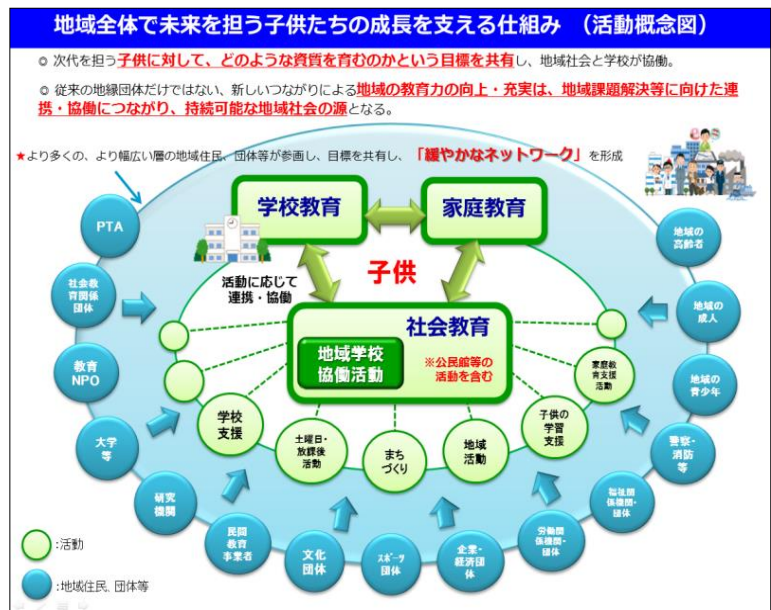
全ての親の親としての学びや育ちを応援することが、家庭教育支援の基本です。その中で、応援される側が学び育つばかりでなく、応援する側も共に学び育つ関係にあることによって、双方の実践を通じた学びの循環が家庭教育支援全体の生涯学習としての性格を形成することにつながります。さらに、その学びは、応援される側、応援する側という人と人との結び付きの広がりを通して、仲間づくり、ひいては地域コミュニティづくりに展開、発展していく可能性を持っています。地域をはじめとした様々なつながりの中で、助け合いながら子供たちの育ちを応援していこうとする視点が大切です。また、悩みや不安を抱えて孤立しがちな家庭や仕事で忙しい家庭など、待っていては支援が届きにくい家庭に対して、身近な地域の人材を中心にきめ細やかな活動を組織的に行う仕組みを検討していく必要もあります。

具体的なテーマ例

子育てサロン・おしゃべりカフェ（地域の居場所づくり）、子育て講座『親の力』をまなびあう学習プログラム講座（保護者への学びの場の提供）、イクメン講座、孫育て講座、家庭教育支援チームの組織化、訪問型家庭教育支援の仕組みづくり、子育てサポーター・ファシリテーター等の地域の人材育成、子育てに役立つ情報の提供・啓発（SNS等を活用した情報発信）…

3 地域の人材による地域学校協働活動の推進

地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動は、地域の新しい人づくり・つながりづくりの機会として大きな可能性を持っています。子供に関わる活動への多様な住民の参加や、子供たち自身の地域への関わりを通じて、地域づくりに関する学びと活動の輪が広がり、世代を超えて循環していくことが期待されます。身近な地域を含めた社会とのつながりの中で学び、自分の存在が認められることや自分自身の活動によって自らの人生や社会をよりよく変えたりしていくことができる実感



平成 27 年 12 月中央教育審議会「地域学校協働答申」より

育むことは、子供たちの成長につながります。今、学校は、「社会に開かれた教育課程」を理念として、社会や世界と接点を持ち、多様な人々とのつながりを保ちながら学ぶことができる開かれた環境を実現していこうとしています。公民館がハブとなり、地域内外の様々な主体が緩やかなネットワークの形成を図りながら、学校、家庭、地域が相互に協力し、子供の成長というテーマを核に、地域全体で学びを展開し、子供も大人も学び合い育ち合う体制の整備が目指されます。

具体的なテーマ例

公民館をハブとした地域学校協働活動の仕組みづくり、学校支援活動（授業等の学習補助、教職員の業務補助、部活動指導補助、学校行事支援、学校環境整備、登下校の見守り等）、放課後子供教室、地域未来塾、土曜日の教育活動（学習支援）、コーディネーター・ボランティア等の地域の人材発掘・育成（研修、人材バンク）、地域住民の理解促進・ビジョン共有（〇〇地区の“育みたい子供像”を考える交流会）、通学合宿、地元中・高等学校等との連携協働事業（地域課題解決学習）…

4 地域の人材による社会的包摂の実現

年齢・性別・障害の有無・国籍・所得等にかかわらず、さらに、孤立しがちな人や、生きづらさを抱えた人も含め、全ての人が共に認め合い、温かい関係性の中で自らを高めながら暮らすことのできる共生社会を実現し、社会福祉を増進する上で、生涯学習や社会教育は大きな役割を果たします。社会の中で孤立しがちな人々の学びのきっかけづくりに向け、多様な関係者が連携し、より一層きめ細かい取組を進める必要が求められます。福祉部局や民生委員、社会福祉士等、専門性を持った多様な主体と連携を進めることにより、孤立しがちな人や生きづらさを抱えた人に対するアウトリーチの取組等にもつなげていくことができます。

具体的なテーマ例

地域子供食堂、〇〇公民館カレーの日、ふれあいオープン喫茶、みんなの寺子屋プロジェクト、ユニバーサルカフェ、どこでもお悩み相談カフェ、できることもちよりワークショップ、地域支え合いプロジェクト、セーフティネット学習会、地域支え合いマップづくり、外国人住民のための医療機関マップづくり、認知症サポーター養成講座、認知症カフェ…

5 地域防災・減災の仕組みづくり

公民館等の社会教育施設には、地域活性化・まちづくりの拠点に加えて、災害時の「避難所」となるなど、いずれの地域でも大きな課題となっている地域の防災拠点としての役割が強く期待されるようになってきました。「公民館」が他の施設と異なる特徴は、地域住民に対して、日常の防災意識を高めるための防災学習が実施できる点です。大きな災害が繰り返し発生している今、住民への防災学習は喫緊の課題であり、「公民館」に課せられた重要な役割です。地域防災・減災の仕組みをつくっていくためには、行政による「公助」のみならず、個々人の自覚に根差した「自助」や、さらには地域における「共助」の取組が不可欠です。そして、その前提となるのが、一人一人の防災意識であり、地域の防災力です。

具体的なテーマ例

地域防災関係組織のネットワーク化、防災ワークショップ、地域防災力アップ講座、防災キャンプ、防災フェスタ、防火訓練、救命救急講習、防災ウォークラリー、災害発生直後の避難所（公民館）運営の仕組みづくり、災害時避難所開設訓練（HUG 避難所運営ゲーム）、クロスロードゲーム、DIG（災害図訓練）、防災教室「ひろしまJプログラム」、防災運動会（地区運動会と合同実施）、「広島県『みんなで減災』一斉地震防災訓練」参加、ハザードマップ作成、災害ボランティア入門講座、災害語り継ぎ事業…

6 その他 地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成

◆地域の人材育成

具体的なテーマ例

地域づくり担い手養成セミナー，地域の魅力発信「〇〇学」ボランティア養成講座，地域協力し隊プロジェクト，まちのおせっかいさん養成講座，地域講師デビュー応援事業，公民館活動リーダー養成塾，こども先生育成事業，まちづくりファシリテーション講座…

◆若者や中高年世代の地域参画

具体的なテーマ例

地元中学校・高等学校等との連携協働事業（地域課題解決学習），若者の力を生かす地域活性化プロジェクト，地域デビュー講座（入門編，計画編，実践編），あなたもなれる！おケイコ講師デビュー応援講座，おとなの学び応援塾，セカンドライフ創生塾…

◆共助による高齢者支援（健康寿命，健康・生きがいづくり，介護，社会的孤立防止，多世代間交流…）

具体的なテーマ例

熟年者マナビ塾，ふるさと講師リレー講演会（おじいちゃん・おばあちゃんから昔の話を聞こう），思い出語りボランティア講座，めざせ健康体クラブ，笑顔のかつながりプロジェクト，残しておきたいふるさと料理事業，傾聴ボランティア（話し相手づくり）養成セミナー，終活セミナー…

◆グローバル化と地域（国際理解・交流，多文化共生…）

具体的なテーマ例

グローバルカフェ，留学生による多国籍交流料理教室，やさしい日本語教室，日本語ボランティア養成講座，次世代グローバル人材育成プロジェクト…

◆地域産業振興（地場産業活性，地域ブランド開発，コミュニティビジネス，観光促進…）

具体的なテーマ例

地域CMづくりプロジェクト，〇〇アグリカルチャー大学，〇〇商店街活性化コラボプロジェクト，地域ブランド（名産品）開発事業，リノベーション公民館，〇〇こども起業塾…

◆地域振興全般（伝統文化継承，地域行事・地域団体活性化，定住・空き家対策，関係人口増加…）

具体的なテーマ例

自治会（子供会）活性化プロジェクト，〇〇まつり応援隊，お祭り公民館（公民館まつり活性化），空き家プロジェクト，ご当地アイドル養成講座，ふるさとツアープロジェクト，農村体験プログラム，恋の輪〇〇婚活支援プロジェクト…

第3章 企画・実践のヒント

地域住民を始め、地域内外の多様な主体とつながり、アイデアを出し合ひましょう。
企画や事業の運営を、「ひろプロ」コーディネーターがすべて一人で担う必要はありません。
様々な人々と地域の未来の姿について、語り合ひ、知恵を出し合ひ、「目的」を共有してともに行動しようとするプロセスの中で、プロジェクトに関わる様々な人々の当事者意識が育まれ、新しい価値が生まれます。

1 コーディネーターの役割

「コーディネーター」とは、物事が円滑に行われるように全体の調整や進行を担当する人です。社会教育の専門職として求められている「コーディネーター」には、①学習課題の把握と企画立案能力、②コミュニケーション能力、③調整者としての能力、④幅広い視野と探究心等が必要とされていますが、ここでは、これらを参考に「ひろプロ」コーディネーターの役割として整理した「8つの視点」についてご紹介します。

「ひろプロ」コーディネーターの役割 8つの視点

① 住民の歩みに伴走する

- 住民と積極的に対話し、困り事ややりたいこと等の思いを知る
- 信頼関係を結び、ともに考え行動を始める
- 住民が地域の課題や将来像を共有し、当事者意識をもって協働できるよう働きかける

② 客観的に地域を知る

- 地域の情報を幅広く収集し、地域の来歴や特性、現状を客観的に把握する
- 様々な資源や情報とつながるネットワークを持つ

③ 地域の過去と現在と未来をつなげ、企画する

- 地域の現状・課題やその背景を把握・分析し、物事の関係性を構造化して捉える
- 個人のニーズと社会の要請のバランスを視野に置き、地域課題を見極める
- 課題解決に向けたプロセスを明らかにし、地域資源を生かした企画を立案する

④ プロジェクトを組み立て、実行に向けて調整する

- プロジェクト運営に必要な仕組み・体制（チーム）を組み立てる
- 状況を客観的に判断し、実現可能なスケジュールを組んで進捗を管理・共有する
- 「目的」の達成に向けて、直面する課題や障壁をチームで乗り越えやりとげる

⑤ 円滑なコミュニケーションをとる

- 多様な価値観を柔軟に受け入れ、共感をもって対応する
- プロジェクトの意図や内容を住民や関係者に分かりやすく伝える
- ファシリテーションのスキルやマインドを身に付け、人々の思いや力を引き出す
- それぞれの思いや譲れない部分を明確にし、違いを共有しながら粘り強く話し合う
- 異なる立場や役割、利害関係にある人々がともに納得できるゴールを目指し調整する
- 自らが好奇心をもって前向きに学び、新しいことに楽しみながら挑戦する

⑥ 地域づくりの基盤となるネットワークを育む

- 他部局やNPO、学校、企業等の多様な主体とのつながりをもつ
- 多様な主体と連携・協働し、お互いの強みを生かしたネットワークを育む
- 人と人とのつながりを生み出し、社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）を創出する

⑦ ビジョンを持つ、共有する、更新する

- 地域の課題を自分事として捉え、主体的に関わる
- 地域にとってどういう未来が理想的な姿か、具体的な「ビジョン」を持つ
- 地域のビジョンを多様な人々と共有し、新たなものへと更新する

⑧ プラットフォームとしての「公民館」をデザインする

- 「学びから始まる地域づくり」を実現するこれからの「公民館」の在り方を描く
- 地域内外の多世代・多目的・多様な人や組織が乗り入れ可能な学びと創造の場をつくる
- オープンでフラットなプラットフォームとしての「公民館」をデザインする

2 地域を知ろう（分析シートの作成）

「ひろプロ」立案に必要な地域分析のヒントを説明します。「分析シート」を作成してみましょ。

「分析シート」は、様々なプロジェクトを構想するための「地域カルテ」のようなものです。すでに地域にカルテがあるならそれをベースにしてもよいでしょう。

▶▶「ひろプロ」分析シート（90 ページ）

1 まずは地域の現状・課題を把握しよう

地域の現状や実態を、なるべくたくさん、できるだけ具体的に収集し、地域課題の把握や解決の方向性の洗い出しを行っていきましょう。

▶地域（コミュニティ）の情報を収集し、地域の特性を見つけましょ

地勢・地域条件や地域住民の生活状況、教育・文化的環境の現状や実態等を把握ましょ。

【収集情報の一例】

- 人口 世帯数 世帯構成（一世帯あたり人員）
- 年齢（区分）別人口（割合） 地区別世帯数・人口
- 高齢者人口（後期高齢者、独居高齢者）（割合） 年少人口（割合） 生産年齢人口（割合）
- 生活保護率 ひとり親世帯率 持ち家率 所得状況 外国人数
- 地縁団体（自治会・子供会・老人会・女性会・青年会等）加入率
- 自主防災組織等の有無 （土砂災害）危険箇所
- 教育・文化施設 地元企業・商業施設 福祉・医療施設 工業施設
- その他

【公民館等の状況】

- 利用者数（世代別利用割合） 年間開館日数（開館時間）
- 対象人口一人当たりの年間利用回数
- 講座・事業数（参加者数、学習内容別割合） 登録団体・サークル数（活動回数）
- 地域課題の解決に向けた講座・事業（特色ある取組）
- 公民館運営審議会等の委員数（年間総開催時間、審議テーマ） その他

👉 ヒント

- ◎自治体の持っている統計資料・情報を積極的に活用ましょ。
 - ・「国勢調査」で多くの統計情報が得られます。
 - ・自治体で「オープンデータ」を公開していれば活用ましょ。
- ◎ヒアリングも有効な手段です。住民や関係者の声を聴き、地域特性を確認ましょ。
- ◎地域の特性は、これまでの地域の歴史とつながっています。現在の地域の様子だけでなく、地域の来歴についても調べてましょ。
- ◎収集した地域の情報を他の地域と比較するなどして、地域の特性を発見ましょ。

▶見えてきた地域の実態から「地域の課題」を抽出し、「解決の方向性（こんな地域にしたい）」を描いてみましょう

課題の根拠をしっかりと示し、地域社会のニーズ（社会の要請）や住民の思い（個人の要望）のバランスを視野におきながら、「地域の課題」や「課題解決の方向性」を描いてみましょう。日常生活の中で「困ったな」「地域社会がこう変わればもっと暮らしやすくなるのにな」と感じることは、広く「地域課題」と捉えられます。

ヒント

◎今回取り組む企画のテーマは、どのような地域課題やニーズとつながっていますか。

例）次世代育成，地域と学校の連携協働，家庭教育支援，防災・減災，地域の絆づくり，高齢者の健康寿命延伸，社会的包摂の実現，貧困問題，教育格差，環境保全，国際理解，伝統文化継承，若者支援…

◎いろいろな視点から「地域課題」を捉えてみましょう。

- ・「課題」として捉えていたものが、視点を変えればポジティブな「資源」に捉え直せるかもしれません。例）高齢化率が高い → 経験豊富な住民が多い
- ・数多くある課題の中から、緊急性や実現性に応じて優先順位をつけることも大切です。「生涯学習・社会教育」（学びから始まる地域づくり）の観点から課題を整理してみましょう。
- ・顕在化している課題だけでなく、潜在化しているものを「見える化」（顕在化）させて把握することも大切です。

◎見えてきて地域の現状や課題が将来的にどのようなになっているのが理想的か考えてみましょう。

- ・課題が解決した後の状況（地域住民の生活）をできる限り具体的に思い浮かべましょう。
- ・今回の取組を実施することで直接的に起こりうる成果だけでなく、長期的な視点で地域に及ぼしたい波及効果や影響（インパクト）についても考えてみましょう。

2 既存の事業（現在・過去）の成果と課題を整理しよう

これまでに取り組んできた公民館等での講座や事業を捉え直してみましょう。過去に類似した取組がなかったでしょうか。その取組が継続していない（している）理由は何でしょうか。

ヒント

◎関連行政・学校・民間・団体等の事業についても調べてみましょう。

- ・連携・協働することで新しい価値を生み出せそうな関係性が見つけれませんか。
- ・対応する行政施策（総合計画・教育振興基本計画，生涯学習推進計画，社会教育計画，各種答申やアクションプラン等）はあるか，また，その担当部署はどこでどのような取組を行っているか調べてみましょう。
- ・現在，地域で進めている事業・計画などはありませんか。「地域ビジョン」が策定されていれば積極的に活用しましょう。

◎地域や自治体内の取組に限らず，参考にしたい「先進事例」を積極的に集めましょう。

- ・広島県内の公民館等の取組事例は，広島県立生涯学習センターHPからご覧になれます。

検索 「**ばれっとひろしま**」 → 「公民館等の取組事例集」

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/torikumijireisyu1.html>

- ・他の自治体の施策・事業や，企業の社会貢献活動（CSR），大学・NPOの取組等，幅広く地域内外（国内外）の先進事例を探してみましょう。先行事例や既存調査で解決方法が提示されているかもしれません。

3 地域の資源（ヒト・モノ・コト・カネ）を洗い出そう

地域の人材や資源を積極的に活用するために、どんな資源があるかできるだけ具体的に洗い出してみましょう。

【ヒト】

- 住民（キーパーソン，協力者） 自治協議会
- 公民館等団体利用者（サークル・クラブ等）
- 小・中・高等学校（児童生徒，教職員，保護者（PTA））
- 民生委員，主任児童委員，保健師，保育士
- 老人会，女性会，子ども会 社会福祉協議会 農業協同組合
- 地元企業 NPO 地域おこし協力隊
- その他

【モノ】

- 特産品，生産物 公共施設（集会所，公園，駅） 公共交通
- 教育・文化施設（学校，大学，図書館，博物館） 地元企業・商業施設・商店
- 福祉・医療施設 幼稚園・保育所・認定こども園 文化財・史跡 工業施設
- その他

【コト】

- 歴史 文化 郷土料理 伝統行事（祭り） 伝統芸能
- 産業 観光 自然・環境 防災・防犯・地域安全活動
- その他

【カネ】

- まちづくり支援事業補助金 自治協議会予算 その他助成事業等
- その他

👉 ヒント

- ◎地域の歴史や文化などについては、住民の協力を得て、昔の地図や写真を集めてみたり、高齢者に話を聞いてみたりすると新しい発見があるかもしれません。
- ◎ありふれた地域資源であっても、その活用方法によっては、地域の活性化につながります。いろいろな視点から捉えなおしてみましょう。
- ◎資源は使えばなくなってしまうものばかりでなく、活用すればするほど価値が高まったり、増えたりするものもあります。例えば、「ヒト（人材）」や「人的ネットワーク」という資源は、活用すればするほど、成長したり、絆が深まったりします。地域の伝統文化や特産品を活用すれば、地域への興味・関心を高めたり、新たな活用の可能性を開いたりすることにもつながります。

3 企画立案しよう（企画シートの作成）

「ひろプロ」立案のヒントを説明します。「企画シート」を作成してみましょう。

▶▶ 「ひろプロ」企画シート（91 ページ）

1 「目的」を立てよう

企画の基本的な考え方を整理します。事業を立案する際には、様々な要素を総合的に考えて検討する必要がありますが、「目的」をしっかりと定めることにより、それらの要素が一つの方向性に集約され、揺らぎのないものになります。様々な地域課題の中で、今回はどの課題について、どのような切り口で解決したいのかを考えてプロジェクトの「目的」（地域課題解決の方向性）を描いてみましょう。

▶ 地域の現状・課題（今の地域）に対して、どのような地域にしていきたいのか、地域の未来像を想定し、「課題解決の方向性」をイメージしてみましょう

- ・何年後にどのような状態になっているかを想定して具体的に書いてみましょう。

ヒント

- ◎プロジェクトには、ステークホルダーと呼ばれる多くの人や組織が関わることとなりますが、今回のこの企画を主に誰に届けたいのか、誰と誰をつないでどのような関係を生み出したいのか、具体的なターゲット像を描きながら立案しましょう。
- ◎地域ビジョン等で具体的に示されているものがあればそこから転記する方法もあります。
- ◎住民自らが、地域の課題や未来像（こんな地域にしたい）を描くことから始めることも有効です。

▶ 「持続可能な開発目標」（SDGs）の視点と関連付けて考えてみましょう

- ・「持続可能な開発目標」（SDGs）の 17 のゴールの中から関連するものを選んでアイコンを付してみてください。
- ・地域の課題解決がグローバルな課題解決につながっていくこと、グローバルな課題解決は地域での課題解決の積み重ねであることを意識しながら考えましょう。

「持続可能な開発目標」（SDGs）

平成 27 年 9 月の国連サミットにおいて、「持続可能な開発目標」（SDGs：エスディーゼーズ）が採択され、地球上の「誰一人として取り残さない（leave no one behind）」をテーマに、持続可能な世界を実現するための国際目標が定められています。目標は、誰一人として取り残さない「包摂性」や、全てのステークホルダーが役割を持つ「参画性」、社会・経済・環境に統合的に取り組む「統合性」等が特徴です。また、SDGs を受けて策定された日本国内の実施指針においても、優先的に進める分野の一つとして「あらゆる人々の活躍の推進」が挙げられています。

広島県においても、平成 30 年 6 月に「SDGs 未来都市」に認定、8 月に「SDGs 未来都市計画」を策定して、SDGs の達成を通じた平和構築の実現に積極的に取り組んでいます。



2 取組内容を描いてみよう

こんな地域にしたいという「目的」（地域課題の解決の方向性）を実現するためにどんな取組が必要でしょうか。どのようなアプローチで目的の達成に向かっていくのか、発想を広げて自由に描いてみましょう。

実現に向けてどのような資源（ヒト・モノ・コト・カネ）が必要となるか、それをどうやって確保するかについてもイメージしてみましょう。

▶ アイディアを生み出しましょう

まずは、質より量！いきなり企画書に書き込まず、できる限りいろいろなアイディアを生み出してみましょう。

ヒント

- ◎ いろいろなところにヒントは転がっています。様々な方面に情報のアンテナを張り巡らせておきましょう。企画者自身がワクワクしながらイメージを膨らませることが大切です。
- ◎ 「ブレインストーミング」（グループディスカッションで新しい発想を創出する会議手法）等でアイディアを広げてみる方法もあります。固定観念や先入観にとらわれず、自由に対話することで、一人では思いつかない斬新でユニークなアイディアが生み出されます。
- ◎ 「先行事例」を参考に、この地域で実現するならどんな取組になりそうか考えてみましょう。まずは「模倣」から始めてみることも有効です。

▶ 既存の講座・事業の見直し（リデザイン）から始めてみましょう

プロジェクトの立ち上げは、全てをゼロからスタートする場合だけではありません。既存の講座・事業の見直し（リデザイン）から始めてみることもできます。

既存の講座・事業を収集・整理し、つなぎ合わせて、新しい「プロジェクト」に位置づけ直してみましょう。公民館等の主催事業（学習プログラム）やサークル講座の中に、住民と一緒に新たな「プロジェクト」を立ち上げられそうな「きざし」や「チャンス」は見つかりませんか。

ヒント

- ◎ 既存の講座・事業を見直すプロセスを通じて、これまで取り組んできたことの中に、新しい価値や意味、関係性（つながり）を見出したり、「こうしたらもっといいかも」、「あの事業や組織とつなげたらもっと効果的かも」などの気づき生まれることがあります。
- ◎ アイディアを形にしていくためには、いろいろな人・団体の協力を得なければ進みません。地域の資源（ヒト・コト・モノ・カネ…）を有効活用し、多様な主体と連携・協働しながら、ネットワーク型の視点で進めていきましょう。
- ◎ 住民が主体的に当事者意識をもって「プロジェクト」に参加・参画できるよう、「体験型・参加型・参画型」の学びや活動を取り入れましょう。

▶ 「目的」と「手段」が入れ変わっていませんか

「目的」と「手段」（取組内容）の関係性をしっかり見極めて企画の中に落とし込みましょう。こうありたいという「目的」を実現するために選択した「手段」だったはずなのに、その「手段」を実行すること自体が「目的」になってしまう（手段の目的化）のはよく起こりがちな現象です。「何をやるか」より「何のためにやるのか」が重要です。

▶「広報」に取り組みましょう

広報はイベントの告知（集客）だけでなく、こんな活動をしているという情報発信の意味もあります。「企画」の段階で、積極的に「広報」の視点を取り入れましょう。

ヒント

- ◎「あそこであんな楽しそうなことをしている」という活動への興味関心や理解が深まれば、新たな仲間が増えるかもしれません。
- ◎地域内に伝えるための広報手段として「チラシ・ポスター」「公民館だより」「クチコミ」を充実させるとともに、地域外や情報が届きにくい人に伝えるための「WEB（SNS、HP、動画配信、ポータルサイト）」の活用や、信頼されるための広報としての「マスコミ」や「自治体広報誌」の活用等を検討しましょう。
- ◎新聞やテレビ等で取組の様子が取り上げられることは、地域の声や魅力の発信、地域への愛着心や誇りの醸成にもつながります。
- ◎関係者（ステークホルダー）間でプロジェクトの目的や活動情報を共有する（インナー広報）ことにより、それぞれの持つ「広報ツール」でさらに情報を広げてもらえる可能性が生まれます。

▶スケジュールを立てましょう

3年程度を目安に「準備期（立ち上げ、チームづくり等）」「試行期（本格実施の前の試行実施）」「実施期（本格実施）」等に分けて、計画を立ててみましょう。スケジュールを時系列に並べて、PDCA サイクルを「見える化」しながら進めることで持続可能なプロジェクトが実現できます。

▶プロジェクトの未来の姿を描いてみましょう —発展・継続・関連—

中長期的な展望のもとで、本プロジェクトの終了（3年程度を想定）後、どのように継続・発展させていくのか、未来の姿を描いてみましょう。

▶取組のポイントをまとめましょう

プロジェクトのポイント（特色、良い所、アピールポイント）を3点程度にまとめて簡潔に表現してみましょう。取組の意図を住民や関係者に分かりやすく伝えることができます。

▶プロジェクト名を考えましょう

取組のアイデアがまとまってきたら、プロジェクトのネーミングを考えてみましょう。

ヒント

- ◎地域内外の多世代・多様なたくさんの人や組織がこのプロジェクトに関わってみたい、また、関わってよかったと思える、ユニークで魅力的なネーミングを考えてみましょう。
- ◎「私たちのまちの私たちのプロジェクト」であることをアピールするために、「地域名」や「地域らしさ」を取り入れることも有効です。

3 「成果指標」を立てよう

「目的」を達成することができたか評価するための「成果指標」（目的の達成度・波及効果）を立てましょう。具体的にどのような状態になったら企画が成功し、成果が上がったと言えるか考えてみましょう。「バックカスティング思考」（未来（ありたい姿やあるべき姿）を起点に、現在を振り返って今何をすべきかを考える思考法）を取り入れてみましょう。

▶ 「評価・検証」の計画は、企画段階からしておきましょう

- 「評価・検証」に取り組むのは、集客数や満足度といった事業結果の計測や、計画どおりに事業が遂行できたかどうかを判断するためだけではありません。
- 目標値に到達することも大切ですが、最も大切なのは、具体的にどのような変化を住民や地域にもたらしたか客観的に把握し、次につなげていくことです。
- 参加者アンケートのほかに、事業のミーティングや振り返り会の記録、事業に関わる方の感想の声等を日々記録に残しておくことで、地域や住民の変化等が見えてくることもあります。

▶ 「目的」に立ち返りましょう

- 企画において最も重要なのは、「目的」の実現にどれだけ近づくことができたのか、どのような成果、波及効果があったかです。まずは「目的」に立ち返ってみましょう。
- 「目的」や「事業内容」と「成果指標」が論理的につながっているか整合性を確認しましょう。「成果指標」を考える中で、「目的」や「内容」を見直す必要性に気が付くこともあります。

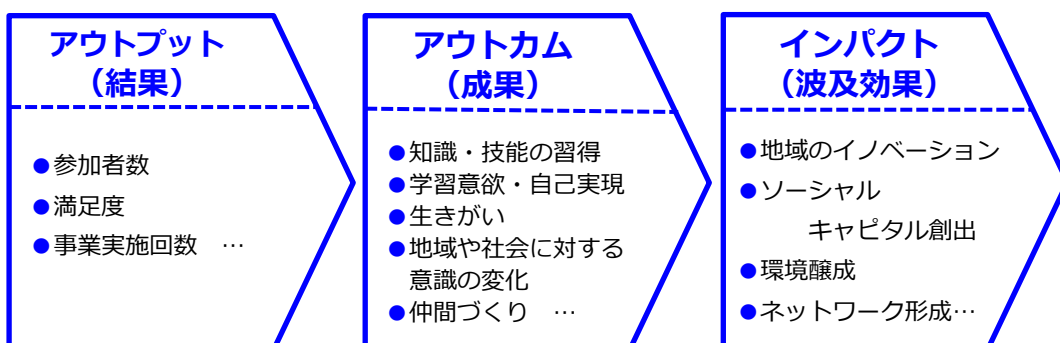
▶ 「定量評価」と「定性評価」

- 「目的」をどれだけ達成できたか、さらなる波及効果はあったのか、指標はできるだけ数値化し、客観的なものさしで評価できるようにしましょう。（＝定量評価）
- 数字では表せない「質」に関する内容については、定性的に考えることで、つながり（関係性）や、意味、文脈などを明確にしやすくなります。（＝定性評価）

ヒント

- ◎ 「指標」は、「アウトプット」（直接の結果）、「アウトカム」（目的の達成度・成果）、「インパクト」（波及効果）の3つの観点に分けて考えることができます。
- ◎ 「アウトプット」と「アウトカム」を混同しないようにしましょう。「インパクト」は地域への波及効果や影響のため、長期的な視点が必要です。
- ◎ 事業に参加する住民だけでなく、プロジェクトに関わる主要なステークホルダー（関係者・関係機関）にどのような影響を与えられるかについても想定してみましょう。

【イメージ】



4 「実施体制」を組んでみよう

「目的」を達成するために必要な「実施体制」を考えましょう。

- ▶プロジェクトのステークホルダー（関係者・関係機関）を洗い出し、互いの強みを生かし合える効果的な仕組み・体制（チーム）を描いてみましょう

ヒント

- ◎公民館の利用者や地域内の既存の関係団体のほか、地域内外の多様な主体が関わり、住民の主体的・協働的な学びを通じた地域づくりが実現できるような実施体制を考えてみましょう。
- ◎自分たちに「できること」と「できないこと」を明確にし、いろいろな人や機関・団体の協力をあおぎましょう。いろいろな協力によって生まれた活動は、その後の主体的な活動へとつながるきっかけになります。
- ◎多様な主体がメンバーとして関わられるよう、「実行委員会形式」をとる方法もあります。

5 「運営財源・活動資金」を計画しよう

プロジェクトを進めていく上で必要な「運営財源・活動資金」を考えましょう。

- ▶主催事業の予算のほかに、助成金・補助金等の活用も検討してみましょう

- ・助成金や補助金は、比較的まとまった資金が調達できる一方で、あくまでも一時的な資金源であり、様々な制限や制約が生まれます。また、その制度を設けた「ねらい」があり使用目的も限られます。こうした特徴を知ったうえで、効果的に活用する必要があります。
- ・「金の切れ目が事業の切れ目」にならないよう、現実的かつ持続的な資金計画を立案しましょう。

ヒント

- ◎広島県教育委員会 HP「公民館等お役立ち情報」では、公民館等を拠点とした地域活動活性化の資金源となる「助成金情報」を紹介しています。

検索 「ばれっとひろしま」 → 「公民館等お役立ち情報」 → 「助成金情報」

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/joseikin-bunspo.html>

- ◎目的を共有できる機関・団体の中には、「予算（資金）」や「人員」、「広報手段」などの資源を持っているところがあります。各ステークホルダーの資源を活用することで、資金がなくても企画を実施できる場合もあるので、事前にしっかり確認しましょう。

- ◎「クラウドファンディング」の活用を視野に入れてみる可能性もあります。

クラウドファンディングとは、「クラウド（＝群衆）」と「ファンディング（＝資金調達）」を組み合わせた造語で、インターネットを通して自分のアイデアや活動を発信することにより、その思いに共感し応援したいと思ってくれる人から広く資金を集める仕組みです。平成 30 年 12 月に出された中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」の中でも、このクラウドファンディングへの期待が取り上げられています。

第4章 開発モデルの試案

開発モデルの試案の一覧

① 地域の未来像を共有するための学びの場づくり	
	みんなでつくる・未来の〇〇プロジェクト（まるごと〇〇大学）
	地域づくりビジョン発! 〇〇活性化プロジェクト
② 地域の人材による家庭教育支援	
	地域みんなで☆子育て応援団プロジェクト（家庭教育支援チーム〇〇）
③ 地域の人材による地域学校協働活動の推進	
	地域・学校 ^{ともそだ} 共育ちプロジェクト ～子供は地域の宝じゃけん～
	地域の輪 〇〇っ子応援隊プロジェクト
④ 地域の人材による社会的包摂の実現	
	つながりプラットフォームプロジェクト（公民館カレー食堂）
⑤ 地域防災・減災の仕組みづくり	
	チャレンジ防災!プロジェクト in 〇〇
⑥ その他（地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成）	
	「〇〇100歳大学」プロジェクト
	「〇〇×アート = ^{むげんだい} ∞ ?!」プロジェクト
	リノベ公民館プロジェクト

※〇〇は自治体や地域名等をイメージしています。

①地域の未来像を共有するための学びの場づくり

みんなできつくる・未来の○○プロジェクト(まるごと○○大学)



地域の現状・課題 (今の地域)

- ・過疎や高齢化が進み、若年世代が減少(高齢化率:○○%)
- ・若年世代の地域参画機会の減少
- ・地域住民(多世代)同士の交流の場の不足
- ・公民館等の貸館状態化, 利用者の固定化

目的 (課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

- ・住民参画による地域ビジョンの形成・共有
 - ・若い世代の地域貢献活動の活性化・世代間交流
 - ・学びを通して社会に主体的に関わり行動する人材の育成
- ▶ **公民館が“学び”から新しい未来を生み出す地域の拠点に!**

4 取組の進捗をみるために

11 地域貢献活動の活性化

17 参画者の増加

取組の概要

ポイント

- ① 住民一人一人の思い, アイディア, 学びの成果を地域づくりに生かす!
- ② 地域の人, 組織, 事業, 自然環境, 文化, 歴史, 生活...すべてをまるごと学習資源に!
- ③ 若い力で地域を変えろ!(学び力と郷土愛の育成)

■ 地域への思いや未来像を共有するためのワークショップ (まるごと○○大学)

- ① 地域の思いを知る(プロジェクトチーム立ちあげ, 住民リサーチ(インタビュー, アンケート))
- ② 地域の変化を読む(地域の昔と今を知り, 現状を把握)
- ③ 地域の魅力を集める(中高生による地域の魅力発見フィールドワーク)
- ④ 地域の未来を語りあう(中高生と多世代の住民の対話で生み出す地域の未来像)
- ⑤ できるところから始める(未来像を実現する事業を立案し, 活動を開始!)

■ プロジェクトチームによる企画会議 (事業計画立案, 試行実施)

- ・ **事業開始 (まるごと○○大学)**
- ・ **公民館まつりへの出展・協力 (成果発表)**
- ・ まるごと○○大学体験ミニコーナー
- ・ プロジェクトの紹介展示ブース
- ・ 中高生による成果発表

【事業(まるごと○○大学)のアイディアの一例】

- ・ 高校生レストラン(○○カフェ)
(特産品を使ったメニュー開発, 中学生・高校生によるレストラン運営)
- ・ ○○アドベンチャー・パーク
(豊かな自然環境を生かした子供の体験学習の場づくり)
- ・ ○○チャレンジクラブ
(誰かのやってみたいこと・挑戦をみんなで応援)
- ・ ○○農業大学(若い世代の力でクリエイティブな未来の農業を創造)

発展・継続・関連

・プロジェクトチームの自立化支援(発展・充実) ・学校や企業, 団体等との連携の広がりと継続

成果指標 (目的の達成度, 波及効果)

【定量評価】

- ・プロジェクトへ参加した住民数
- ・公民館等の利用者数
- ★この地域で暮らし続けたいと思う住民数

【定性評価】

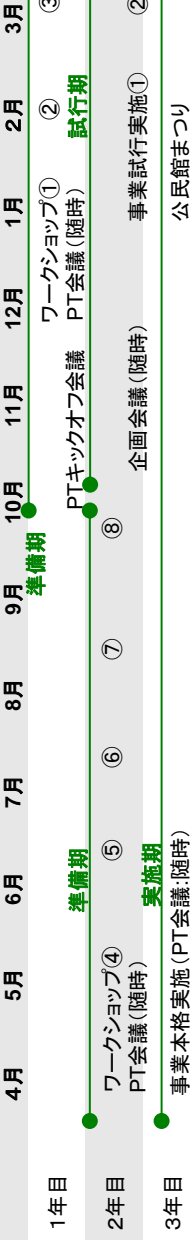
- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力(ソーシヤル・キャピタル)の醸成

実施体制 (連携・協力団体等)

- ・○○公民館(プロジェクト主管)
- ・○○地区自治協議会・地域おこし協力隊
- ・○○市役所(役場)○○課
- ・○○市教育委員会○○課
- ・保育所, 小学校, 中学校, 高等学校, PTA
- ・老人会 ・女性会 ・子ども会

運営財源・活動資金

- ・△△市(町)まちづくり支援事業補助金
- ・○○地区自治協議会(農業部会)予算
- ・公民館主催事業予算 (ほか)



【参考情報】

- このまちにくらいたいプロジェクト(広島市古田公民館)
- 若者参画による過疎地域活性化事業(神石公民館)
- 開成つ子はぐみくみ会(佐賀県佐賀市開成公民館)
- チームさかわ(高知県佐川町)

地域づくりビジョン発! 〇〇活性化プロジェクト



地域の現状・課題 (今の地域)

- 〇地域自治組織の在り方や見直しの必要性
 - ・人口減少により、組織の活動維持が困難
- 〇全住民が共有した「地域づくりビジョン」策定の必要性
 - ・既存のビジョンの認知度が低く、地域づくりに向けた方向性が定まっていない
 - ・ビジョンを踏まえた活動・事業が皆無
- 〇地域行事へ参画する若者を地域づくりの関心・感心へつなげる必要性

目的 (課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

- 〇住民参画による「地域づくりビジョン」の形成・共有
- 〇老若男女を問わず、多世代が住みたいと思える地域づくり (1・Uターン者、障がいのある方、移住者、外国人へもやさしい地域)
- 〇若い世代の積極的な地域参画・活気のある地域づくり事業の展開



取組の概要

- ① 必要かつ実現可能な「地域づくりビジョン」の策定と共有!
- ② 若い世代を巻き込んで、多世代が地域の過去・現在・未来を語り合い!
- ③ 「地域づくりビジョン」の実現に向けた既存事業のリデザインと新事業の立案・実施!

■新ビジョン策定に向けた意見交換と研修会

- ①「過去・現在・未来の地域の現状を知り、予想し、どう動くべきか」をまず自分達で再考
- ② これからの地域づくりやビジョンの必要性を他地域の事例を参考にしながら学習

■新ビジョン策定に向けた検討会議

- ①地域づくりビジョン策定に向けたプロジェクトチームの発足
- ②地域のために「残したい・改善したい・創りたい」等をテーマにワークショップを開催
- ③地域の現状や住民の声、ワークショップで出された意見を参考に新ビジョンを策定

■新ビジョンに基づいた地域づくりを実現するための事業・組織の検討会議

- ①既存事業のリデザイン案、新規事業の企画案の検討
- ②新ビジョンに基づいた地域づくりのために組織体制の見直し検討

■新ビジョンに基づいた事業の試行・実施及び意見の聴取

- ①新ビジョンに沿った事業の試行・実施
- ②関係機関、団体等への意見聴取
- ③新ビジョン・事業等を評価するプロジェクト会議の定期開催

発展・継続・関連

・地域づくりビジョンに沿った事業の見直しと展開・関係機関、団体との連携

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
						準備期						
2年目												
3年目												

成果指標 (目的の達成度、波及効果)

【定量評価】

- ・プロジェクトへ参加した住民数
- ・新地域づくりビジョンの策定
- ・組織体制の見直し

【定性評価】

- ・若い世代の地域づくりへの参画
- ・地域の活性化
- ・地域づくりへの住民意識の向上と組織強化

実施体制 (連携・協力団体等)

- ・〇〇地区振興協議会
- ・青年会
- ・こども会
- ・PTA

運営財源・活動資金

- ・地域づくりビジョン策定に係る補助金
- ・〇〇地区振興協議会予算

【参考情報】

- ・小国丸も応援! 地域づくりビジョン発! 小国地区活性化プロジェクト (小国自治振興センター・小国地区振興協議会) (R01-02「ひろプロ」モデル事業)

地域みんなで☆子育て応援団プロジェクト (家庭教育支援チーム○○)



地域の現状・課題 (今の地域)

- ・親が身近な人から子育てを学ぶ機会減少
- ・家庭教育に関する身近な学びや相談の機会の不足
- ・家庭と地域のつながりの希薄化
- ・地域住民(多世代)同士の交流の場の不足

目的 (課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

- ・「親」の主体性を育み、支援の循環を生み出す学びの場づくり
 - ・子育て家庭を支える地域のネットワークと体制づくり
 - ・多様な世代が関わり合い、安心して子育てができる地域コミュニティの創造
- ▶ **親と子の育ちを応援する“つながり”と“学び”の場としての公民館**

取組の概要

- ポイント**
- ① 「してあげる支援」から、親が親自身の力で育てていくための「力を引き出す支援」へ!
 - ② 子育て家庭と多世代の交流による関係づくり (地域育ち・地域がひとつの大きな家族)!
 - ③ 子育て中の親(当事者)や地域の人材で支援チームを立ち上げ(次世代の支援者を育成)!

■ 子育て応援団プロジェクト・ワークショップの開催

- ・地域内の子育て支援に関わる既存の多様な関係団体のネットワーク形成
- ・地域課題を共有し、一体的な家庭教育の推進を図る

■ 家庭教育支援チーム(立ち上げ準備)キックオフ会議(企画会議：毎月定例会)

■ 家庭教育講演会

■ 子育ておせっかいさん養成講座(「親プロ」ファシリテーター養成講座)

- ・次世代の支援者育成(→チームへの参加呼びかけ)

■ 「子育てにこりカフェ」(オープンスペース)開設

■ ママとパパの子育て応援講座(主催講座、訪問型講座)

■ 子育て応援ファミリーエスタ(公民館まつりと合同実施)

- ・「親プロ」体験ブース・親子で楽しめる体験活動ブース・子育てサークル紹介ブース等

▶ 「家庭教育支援チーム○○」の発足

公民館だより・ブログ・SNSで情報発信

成果指標 (目的の達成度、波及効果)

【定量評価】

- ・講座等に参加した住民数
 - ・家庭教育支援に関わった支援者等の数
 - ・家庭教育支援チームの発足
- ★この地域で子育てしたいと思う住民数

【定性評価】

- ・家庭教育支援のネットワークの構築
- ・地域力(ソーシャル・キャピタル)の醸成

実施体制 (連携・協力団体等)

- ・○○公民館(プロジェクト主管)
- ・「親プロ」ファシリテーターの会
- ・健康福祉部局・民生児童委員
- ・○○地区自治協議会・社会福祉協議会
- ・地域の子育てサークル・保育所、幼稚園、児童館、小学校、中学校、PTA・老人会・女性会・子ども会

発展・継続・関連

- ・家庭教育支援チームの活動促進、自立化支援
- ・学齢期の子供の家庭への支援の充実
- ・つながりにくい家庭に支援をつなげるための、福祉部局や学校との連携の仕組みづくり
- ・子育てガイド・リーフレット作成
- ・地元企業等との連携

運営財源・活動資金

- ・△△市まちづくり支援事業補助金
- ・○○地区自治協議会予算
- ・公民館主催事業予算 ほか

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目							ワークショップ開催 キックオフ会議	企画会議	企画会議	企画会議	企画会議	家庭教育講演会
2年目				「おせっかいさん」養成講座 企画会議(毎月1回)	子育てカフェ開設(毎週○曜日)	子育て応援講座(4回講座)	子育て応援講座(4回講座)	子育て応援講座(4回講座)	子育て応援講座(4回講座)	子育て応援講座(4回講座)	子育て応援講座(4回講座)	子育て応援講座(4回講座)
3年目				「おせっかいさん」養成講座 企画会議(毎月1回)	子育てカフェ(毎週○曜日)	子育て応援講座(4回講座)	子育て応援講座(4回講座)	子育て応援講座(4回講座)	子育て応援講座(4回講座)	子育て応援講座(4回講座)	子育て応援講座(4回講座)	ファミリーフェスタ開催 ★家庭教育支援チームの発足

- 【参考情報】
- 府中町家庭教育支援チーム「くすのき」(府中町)
 - 向東地区家庭教育支援チーム「親ちから」(尾道市)
 - 尾道市「すまいるぱれっと」(「親プロ」ファシリテーターの会)
 - 未来のまちのおせっかいさん養成講座(海田公民館)

地域の輪 ○○○子応援隊プロジェクト

地域の現状・課題（今の地域）

- 新興住宅地域で新しい団地が急速に増加
- 子育て世代の新しい家庭が多く、学校の児童・生徒数も増加
- 子育て世代や多世代間の交流が希薄
- 学校と地域をつなぐ具体的な仕組みがない

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）

- 次世代の地域を担う人づくり
- 学びを通じた地域づくり・つながりづくり
- 学校と地域の教育活動をつなぐ仕組みづくり
- ▶「地域の輪」で未来を担う子供たちの育ちを応援する仕組みづくり！

取組の概要

- ① 今あるもの・こと（ヒトやつながり）を大切に、地域を活性化！
- ② 人と人、人と学びをつなげ、学びのネットワークを広げる「公民館」！
- ③ 大人も子供も、地域も学校も、ともに学びあい・元気になる「地域の輪」！

ポイント

- **応援隊チーム作り**
※情報発信・広報活動（HP, SNS, クチコミ, 情報誌等を積極的に活用）
- ・既存事業の参加者・関係者（子ども体験講座参加の保護者等）や関係団体に呼びかけチームを結成
→ 出入自由な緩やかなチームづくり → 活動に応じて地域の輪（ネットワークを）少しずつ広げる

○ チーム企画会議・事業実施

- **子ども体験講座の企画・実施**
→ 茶話会形式で楽しく会議を運営。開始時のファシリテーター（進行役）は公民館職員が担当
→ メンバーの「こんなことがしてみたい」という思いを引き出し、実現に向けて支援
・チーム主体による事業実施（地元企業見学・体験会・子どもマイスター養成講座等…）
・子どもマイスターを講師として「子どもによる子どものためのワークショップ」を公民館まつりで実施

● 学校との連携・協働事業の検討・実施

- 勉強会（研修）と並行してできるところからスタート
例) 地域課題発見・解決学習・郷土学習の応援 例) 家庭教育支援活動
例) 学校に対する様々な力活動（読み聞かせ、地域講師、学習支援）
※子供たちの地域貢献活動、起業家精神育成、プログラミング、グローバル教育、キャリア学習など、学校だけでは対応しにくい多様な学習活動を地域力で支援

発展・継続・関連

- ・夏休みキッズ講座の継続・チームメンバーの人数増加（つながりの輪を広げていく）
- ・地元企業との連携・企画会議の継続・中学生（とその保護者）の活躍の場の提供

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	夏休みキッズ講座	夏休みキッズ講座	夏休みキッズ講座	夏休みキッズ講座	夏休みキッズ講座	夏休みキッズ講座	心算の立ち上げ	チーム会議				公民館まつり
2年目		夏休み講座 産業交流会	夏休み講座 産業交流会	夏休み講座 産業交流会	夏休み講座 産業交流会	夏休み講座 産業交流会	企画会議					公民館まつり
3年目		夏休み講座 産業交流会	夏休み講座 産業交流会	夏休み講座 産業交流会	夏休み講座 産業交流会	夏休み講座 産業交流会	企画会議					公民館まつり

成果指標（目的の達成度、波及効果）

- ・夏休みキッズ講座参加者数（子供）
- ・夏休みキッズ講座に協力した保護者の人数
- ・協力チーム参加メンバーの数

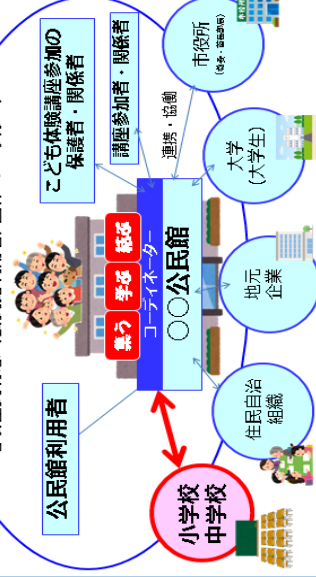
【定性評価】

- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力（ソーシャルキャピタル）の醸成

実施体制（連携・協力団体等）

○○○子応援隊チーム

地域住民有志（公民館利用者、団体・サークル…）



運営財源・活動資金

- ・主催講座謝金
- ・住民自治協議会予算
- ・講座参加費

【参考情報】

- ・地域の輪参加していいとも！ ～川上プロジェクト～
- （東広島市川上地域センター（企画・試行中））

つながりプラットフォームプロジェクト（公民館カレー食堂）

地域の現状・課題（今の地域）

- ・一人親世帯の増加等を背景とした貧困問題
- ・家庭・地域の教育力の低下
- ・地域住民（多世代）の交流の場の不足
- ・地場産業（農業等）の担い手不足

取組の概要

ポイント

- ① 経済的に厳しい、困難を抱える家庭の子供だけでなく地域すべての住民（子供）を対象に！
- ② 既存の公民館講座や関係団体のメンバーがスタッフに（“動員”でなく“楽しんで”活動）！
- ③ お年寄りから子供まで、親しみやすく、誰もが大好きな「カレー」をテーマに事業展開！

準備期

■プロジェクトチームの組織化、事業企画ワークショップ開催

- ・関係団体・サークル等への説明と協力依頼
- ・協力者によるプロジェクトチームの組織化
- ・地域の実態や課題を把握・共有し、プロジェクトの展望を描くワークショップを開催

試行期

- プロジェクト会議
- 事業説明会（広報、周知説明）
- 「公民館カレー食堂」試行（年間5回）

・公民館講座や関係団体のメンバーがスタッフに！

実施期

- 「公民館カレー食堂」定例開催（毎月第1土曜日）
- 公民館まつりへの出展・協力（成果発表）

・各団体のカレー試食ブース
・“子どもカレー食堂”開店！（中高生による主体的な運営）
・プロジェクトの紹介展示ブース

発展・継続・関連

- ・“出張”公民館食堂の実施（他施設・他地域への出前事業）
- ・つながりにくい家庭へのアクセスの検討
- ・子どもカレー食堂の定例実施
- ・学校や企業、団体等の連携の広がりと継続
- ・カレー以外のメニュー開発

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）

- ・地域全体で全ての子供を育む仕組みづくりと多世代交流
 - ・だれもが気軽に訪れ、集い、つながりあえる居場所づくり
 - ・地元食材や地場産業（農業等）への理解・愛着と将来的な担い手育成
- ▶食（カレー）をテーマに地域の誰もが集える“プラットフォーム”を創造

成果指標（目的の達成度、波及効果）

【定量評価】

- ・プロジェクトに参加した住民数
 - ・協力団体（ボランティア）数や提供食材数
- ★この地域で暮らし続けたいと思う住民数

【定性評価】

- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力（ソーシャル・キャピタル）の醸成

実施体制（連携・協力団体等）

- ・〇〇公民館（プロジェクト主管）
- ・〇〇地区自治協議会
- ・〇〇地区社会福祉協議会
- ・〇〇地区農業団体
- ・保育所、小学校、中学校、PTA
- ・老人会
- ・女性会
- ・子ども会

運営財源・活動資金

- ・△△市（町）まちづくり支援事業補助金
- ・〇〇地区自治協議会（農業部会）予算
- ・「子ども食堂」関係の補助事業等活用
- ・ひろしまこども夢財団こども食堂支援事業補助金
- ・農業法人やフードバンクからの食材提供

【参考情報】

- 浅原食堂（廿日市市浅原市民センター）
- 循誘公民館カレーの日（佐賀県佐賀市）の取組
- 各地の「子供食堂」の取組

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目												
2年目												
3年目												

● 事業説明会
● PT全議①
● 公民館食堂（毎月1回）
● PT全議①

● 公民館食堂①
● PT全議②

● 公民館食堂②
● PT全議②

● 公民館食堂③
● PT全議③

● 公民館食堂④
● PT全議③

● 公民館食堂⑤
● PT全議③

● 公民館まつり
● PT全議③

● 協団体等への説明
● PTキックオフ会議①

● 事業企画WS

● 準備期

● 試行期

● 実施期

公民館だより・ブログ・SNSで情報発信

※輪番制でオリジナルカレーを創作
※地元の食材（規格外食材等）を農業法人やフードバンク等から提供協力

チャレンジ防災!プロジェクトin○○



地域の現状・課題 (今の地域)

- ・地域住民の防災意識が低い
- ・災害発生直後の避難所(公民館)運営の仕組みがない
- ・高齢者、障害者、乳幼児(子育て)世帯等の孤立・支援

目的 (課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

- ・住民の防災意識の向上
 - ・地域防災力による避難所(公民館)の開設
 - ・災害時における地域での助け合いネットワークの形成(関係づくり)
- ▶ **地域の安全・安心拠点としての公民館づくり**

4 公民館を
みんなに

11 避難所を
みんなに

17 ネットワークで
つながろう

取組の概要

ポイント

- ① 「防災」という住民誰もが自分事となる共通課題への取組みを通じて、地域力を醸成。
- ② 既存の「地域資源」や「事業」を生かして、できるところから無理なくスタート。
- ③ 公民館が核となり、学校・家庭・地域の連携を通じて防災教育を幅広く推進。

■防災教育ネットワーク会議の組織化, 防災ワークショップの開催

- ・地域内の防災・福祉・教育に関わる既存の多様な関係団体のネットワーク形成
- ・地域課題を共有し、地域の関係団体で一体的に防災教育を推進

■避難訓練・防火訓練 ■救命救急講習

■チャレンジ防災○○ウォークラリー

■災害時避難所開設訓練 (HUG避難所運営ゲーム)

■「広島県『みんなので減災』一斉地震防災訓練」参加 (毎年11月)

■チャレンジこども○○防災キャンプ

■チャレンジ防災フェスタ (公民館まつりと合同実施)

- ・防災プロジェクトの紹介 ・ハザードマップ等の掲示
- ・防災工作教室, 防災紙芝居, 防災カルタ ・消防車展示(消防車と記念撮影)

発展・継続・関連

- 体験型防災学習の充実 ・クロスロードゲーム ・DIG(災害図訓練) ・「防災キッズ」養成講座
- ・防災教室「ひろしまJプログラム」・防災運動会(○○地区運動会と合同実施)

公民館 だより・ブログ・SNSで情報発信

成果指標 (目的の達成度, 波及効果)

【定量評価】

- ・地域防災活動等に参加した住民数
- ・△△市防災情報メールの登録者率
- ★この地域で暮らし続けたいと思う住民数

【定性評価】

- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力(ソーシャル・キャピタル)の醸成

実施体制 (連携・協力団体等)

- ・○○公民館(プロジェクト主管)
- ・○○地区自治協議会
- ・○○地区社会福祉協議会
- ・○○地区自主防災会
- ・保育所, 小学校, 中学校, PTA
- ・老人会 ・女性会 ・子ども会

運営財源・活動資金

- ・△△市まちづくり支援事業補助金
- ・○○地区自治協議会(防災部会)予算
- ・公民館主催事業予算 (ほか)

【参考情報】

- 地域における防災教育の実践に関する手引き (内閣府)
- チャレンジ防災in原(廿日市市原市民センター)
- 防災研修&炊出訓練(庄原市口和自治振興センター)

準備期

試行期

実施期

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
							ネットワー ク会議 キックオフ	ネットワー ク会議①	NW会議②	NW会議②	防災ワー クジョブ	
2年目	避難訓練, 防災訓練 NW会議①	救命救急講習 NW会議②	救命救急講習 NW会議②	防災ウォークラリ 一斉地震防災訓練	防災ウォークラリ 一斉地震防災訓練	防災ウォークラリ 一斉地震防災訓練	防災ウォークラリ 一斉地震防災訓練	避難所開設訓練 NW会議③	避難所開設訓練 NW会議③	避難所開設訓練 NW会議③	避難所開設訓練 NW会議③	
3年目	避難訓練, 防災訓練 NW会議①	救命救急講習 NW会議②	救命救急講習 NW会議②	防災ウォークラリ 一斉地震防災訓練	防災ウォークラリ 一斉地震防災訓練	防災ウォークラリ 一斉地震防災訓練	防災ウォークラリ 一斉地震防災訓練	避難所開設訓練 NW会議③	避難所開設訓練 NW会議③	避難所開設訓練 NW会議③	避難所開設訓練 NW会議③	

「100歳大学」プロジェクト - 人生100年時代をどう生き抜くか -



地域の現状・課題 (今の地域)

- ・人口減少, 超高齢化社会の進展(〇〇地区/高齢化率:〇〇%)
- ・高齢者の生きがい創出, 健康づくり(健康寿命)
- ・独居高齢者, 高齢期の孤立化防止
- ・高齢期の個人の自立と地域参画・社会貢献の仕組みづくり

目的 (課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

- ・体系的に「若い」の基礎・基本を学ぶ
 - ・同年代の仲間をつくり, 地域で生きる(地域の絆づくり)
 - ・高齢者の主体的な学びの支援と「学びの循環」づくり(地域参画・社会貢献)
- ▶ **人生100年時代を見据え, 公民館を拠点とした「100歳大学」を展開**



取組の概要

ポイント

① 「教室」は**住民に最も身近な学習・交流の活動拠点である「公民館」**を活用

② 「先生」は現場の実践家・専門家, 企業・大学・行政など, **地域の多様な主体・人材を積極的登用**

③ 「授業」は「講義」とともに現場での「**体験**」(実技, 演習, 対話, **フィードバック**)を豊富に

④ 「カリキュラム」は**住民(学習者)の参画**による協働型学習プログラムとして開発

⑤ 地域の学びのネットワークを支援する**コーディネーター人材(社会教育士)**を育成・配置

準備期

- **プロジェクトの周知と理解・協力の促進, ネットワーク・チームの組織化**
 - ・自治協議会ほか, 地域内外の関係団体(関係者)との連携, ネットワーク化に向けたコーディネート
 - ・プロジェクトチーム(運営委員会)の立ち上げ, 企画調整会議
 - ・人生100年時代をテーマとした講演会・地元ワークショップ開催(学びから始まる地域づくり講演会・懇談会)
- 「人生100年時代をどう生き抜くか」の今と未来を考えるー」

試行期

- **「100歳大学」の試行実施**
- ・公民館の既存事業(百歳体操・終活・高齢者の料理教室等)と組み合わせて“100歳カAFE”を実施
- ・「100歳大学」の展開(学習プログラム開発, 運営ノウハウ構築等)に向けた試行実施

実施期

- **「100歳大学・100歳キャンパス」の実施**
- ・運営委員会で開発したカリキュラムにより「100歳大学・100歳キャンパス」を開講
- ・認知症予防, 特殊詐欺予防, 福祉制度, 地域参加, 幸せづくりなど, 老いを学び・備える講座の実施
- (市の「まちづくり出前講座」等を積極的活用) → 〇〇地区をモデルに市全域に向けた展開へ

発展・継続・関連

- ・受講修了者の主体的なプロジェクトの運営に向けた支援・事業(カリキュラム・運営)の改善・充実
- ・講師(地域人材)の育成と確保・協力団体等の連携の広がり継続・地域参画・社会貢献活動への支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	プロジェクトの説明と理解, 協力の呼びかけ プロジェクトの立ち上げ → 全体会議 → 講演会実施											
2年目	事業の広報等 → 試行実施											
3年目	事業開始											

成果指標 (目的の達成度, 波及効果)

- 【定量評価】**
- ・講座の実施回数
 - ・講座参加者数
 - ・今後の生活に役立つ新たな知識等を得られた人の割合
 - ・この地域で暮らし続けたいと実感した高齢者数
- 【定性評価】**
- ・地域内ネットワークの構築
 - ・地域力(ソーシャル・キャピタル)の醸成

実施体制 (連携・協力団体等)

- 【連携】**
- ・各地区自治協議会
 - ・〇〇市教育委員会生涯学習課
 - ・〇〇市役所〇〇支所
- 【協力】**
- ・地域おこし協力隊・老人会・女性会
 - ・社会福祉協議会・図書館・大学・企業

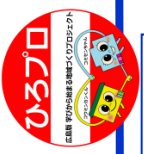
運営財源・活動資金

- ・公民館事業講師謝金
- ・まちづくり補助金

【参考情報】

- 東広島100歳大学(仮称)in福富プロジェクト
(東広島市福富生涯学習支援センター, 各地域センター(R01-02)「ひろプロ」モデル事業)

「〇〇xアート=∞」プロジェクト



地域の現状・課題 (今の地域)

- ・地域住民の地元への興味関心が希薄
- ・地域住民(多世代)間交流の機会の不足
- ・若年世代の地域参画機会の減少
- ・空家の増加
- ・地域から出る若者が多い(Uターンで帰ってくる若者が少ない)

目的 (課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

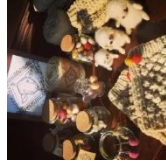
- ・地域を知る～地域の魅力を発見・発信
- ・若年世代の地域参画の十世代間交流
- ・地域内外の人のつながりの中で地域への関心と愛着を醸成

▶「アート」をテーマに「〇〇版」学びのネットワークを構築

取組の概要

- ポイント**
- ① 「若い世代」と「アート」の力でまさにムーブメントを起こす!
 - ② ワクワクする「学びの場」と「学びの輪」づくり! 誰もが気軽にアートで表現!
 - ③ 行ってみたいくなる「公民館」▶ 暮らしてみたいくなる「まちづくり」!

- 「〇〇アートプロジェクト」チーム会議 (随時開催)
 - ・地域おこし協力隊や住民(有志メンバー)を中心にチームをつくり、活動の展開とともにネットワークを広げる
- 「〇〇アートカフェ」-〇〇のアートを感じよう-
 - ・「アート」をテーマに、地域資源を生かした様々な事業を展開し、地域内外に〇〇の魅力を広げる
- **手仕事ワークショップ**
 - ・地域講師(地域おこし協力隊)の協力を得た手仕事ワークショップ
- **〇〇インスタ映スア-**
 - ・知る人ぞ知る地域の「映ススポット」(農園、商店、風景・観光スポット...)を巡るインスタ映スア-
 - ・近隣在住のブロカメラマンの協力を得て、写真の撮り方の知識や技能を学ぶ
 - ・撮影した「映ス写真」を各自がSNSでアップし、地域の魅力を世界へ発信
- **キッズ(親子)アート・ワークショップ**
- **〇〇まちかどギャラリ-**
 - ・ワークショップで作成した作品(学習成果物)を公民館や地域の施設・商店等を「ギャラリー」にして展示
- **美術(現代アート・マンガ)や音楽・映画等をテーマにしたイベントの展開**
 - ・地域にゆかりのある作品(美術・音楽・映画)をテーマに様々なイベントを展開、地域内外の若い世代のアーティストとコラボ



発展・継続・関連

- ・まちの魅力がまったフリーペーパーの発行(公民館だよりの充実)・住民による手作りまち情報サイト立ち上げ・運営の支援
- ・地元企業、大学、学校等との連携強化
 - ・空家活用(リノベーション)の検討

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	準備期	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)
2年目	実施期	事業実施(〇〇アートカフェ)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)
3年目	実施期	事業実施(〇〇アートカフェ)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)	〇〇アートプロジェクトチーム会議(随時)

成果指標 (目的の達成度、波及効果)

【定量評価】

- ・公民館利用者数
- ・プロジェクトに参加した人の数
- ・地域で暮らし続けたいと思う住民数
- ・またこの地域を訪れてみたいと思う人の数

【定性評価】

- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力の醸成

実施体制 (連携・協力団体等)

【主管】

- ・〇〇公民館

【連携・協力】

- ・地域おこし協力隊
- ・地域住民(移住してきた若い世代など)
- ・大学生

運営財源・活動資金

- ・公民館主催事業予算

【参考情報】

- ・とよさかxアートプロジェクト
(東広島市豊楽生涯学習センター(企画・試行中))

リノベ公民館プロジェクト



地域の現状・課題(今の地域)

- ・ 男性, 中高年世代の地域参画
- ・ 地域住民(多世代)間交流の機会の不足
- ・ 公民館の貸館状態化, 利用者の固定化

目的(課題解決の方向性・こんな地域にしたい)

- ・ 男性, 中高年世代の地域参画の促進
 - ・ 地域住民の絆づくり, 地域ネットワークの形成
 - ・ 公民館の利用活性化
- リノベーションの力で, 公民館が変わる! 地域を変える!

取組の概要

- ① リノベーションの力で, 公民館が変わる! 地域を変える!
- ② 普段あまり公民館を利用しない, 男性や中高年世代の参画を促進!
- ③ 地域の企業・商店, 専門家, 専門家, 既存の施設・事業など地域資源を最大限に活用!

思いを共有するためのワークショップ

・こんな地域をつくりたい, こんなことがしてみたい, こんな施設をつくりたいなどの思いを共有

リノベ公民館キックオフ会議→プロジェクトチーム立ち上げ

・ワークショップ参加者を中心にプロジェクトチームを立ち上げ

プロジェクトチームによる企画会議(事業計画立案)

日曜大工講座(既存事業の活用・拡充)

リノベーション講座(ワークショップ)全5回

- ・地域の企業・商店, 専門家等の協力を得ながらリノベーションに関する知識・技能を習得
- ・日曜大工講座の参加者を中心に, 男性や中高年世代の参画を促す

リノベーション開始

- ・公民館の老朽化した部屋などをリノベーション

〇〇まちづくりキャンパスオープン

- ・リノベーションした部屋を活用した事業開始
- ・交流カフェ, ミニマルシェ, 子供体験講座など...

リノベーションステップアップ講座

- 資材・機材や技術指導等は地元企業の協賛を得る。
- 働く世代の方が空き時間を利用して自由に活動できるよう, 休日や夜間の会場開放を検討する。
- 地元若者(中高生等)の協力を得られるよう, 学校と連携する。

発展・継続・関連

- ・まちづくりキャンパスの事業充実
- ・地域内の新たなリノベーション施設の開拓
- ・新たな協力者層の巻き込み

ポイント

準備期

試行期

実施期

成果指標(目的の達成度, 波及効果)

【定量評価】

- ・プロジェクトへ参加した住民数(男性, 中高年世代)
- ・公民館等の利用者数

★この地域で暮らし続けたいと思う住民数

【定性評価】

- ・地域内ネットワークの構築
- ・地域力(ソーシヤル・キャピタル)の醸成

実施体制(連携・協力団体等)

- ・〇〇公民館(プロジェクト主管)
- ・〇〇地区自治協議会
- ・地域おこし協力隊
- ・中学校, 高等学校, PTA
- ・地元協賛企業(ホームセンター, 工務店等)

運営財源・活動資金

- ・△△市まちづくり支援事業補助金
- ・公民館主催事業予算
- ・地元企業 協賛金 ほか

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目						準備期	ワークショップ実施 PTキックオフ会議					
2年目			試行期					リノベーション開始		PT会議(随時)		
3年目			実施期									〇〇キャンパスオープン(3月)
												事業の継続実施 リノベ(ステップアップ)講座

【参考情報】

- マスカヒとまちカレッジとよかわキャンパス(島根県益田市豊川地区つろて子育て推進協議会)
- 泉佐野丘陵緑地「パークレゾナンス」養成講座(パーククラブ)(大阪府宮泉佐野丘陵緑地パークセンター)

第4章 实践事例集

実践事例の一覧

地域の未来像を共有するための学びの場づくり			頁
1	学びのカフェ～地域ジンまちカフェプロジェクト～	大竹市立玖波公民館	48
2	古民家・空き店舗改造カフェ	大竹市立玖波公民館	50
3	このまちに暮らしたいプロジェクト	広島市古田公民館	52
4	ふちゅう井戸端会議	府中市生涯学習センター	54
5	未来のタネを見つけよう	庄原市比和自治振興センター	56
地域の人材による家庭教育支援			
1	子育て支援者ボランティア学習会	広島市佐東公民館	58
2	子育て応援交流会（井戸端かふえ）	広島市祇園西公民館	60
地域の人材による地域学校協働活動の推進			
1	通学合宿	東広島市小谷地域センター	62
2	オール重井で協働のまちをつくり隊	尾道市重井公民館	64
地域防災・減災の仕組みづくり			
1	防災フェア in 向東	尾道市向東公民館	66
2	防災研修&炊き出し訓練	庄原市口和自治振興センター	68
3	東野発「災害をきざむ 地域をつなぐ」プロジェクト	竹原市東野地域交流センター	70
その他（地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成）			
1	郷土料理本「残しておきたいおふくろの味」	神石高原町神石協働支援センター	72
2	満喫！かべ学「ボランティア養成講座」	広島市可部公民館	74
3	「子ども西国街道ぶらり旅」ボランティアガイド養成講座	広島市井口・鈴が峰公民館	76
4	地域の宝・歴史学習	広島市福田公民館	78
5	地元の素材で和紙作り	府中市協和公民館	80
6	森の学校ごっこ in とよひら	北広島町豊平地域づくりセンター	82
7	となりの達人に教えてもらおう！	北広島町千代田・大朝・豊平・芸北地域づくりセンター	84

学びのカフェ～地域ジン学びのカフェ～ 地域ジンまちカフェプロジェクト

地域を学ぶ	●	地域でつながる	●	地域に還す	●
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 23 年 7月～	玖波公民館	【「学びのカフェ」スタート】 ○月に一回、タイムリーな題材やおしゃれで楽しい講座を実施。 ○講座の合間に参加者同士が交流する「カフェタイム」を設け、参加交流型学習を実施。 ○講師や題材に地元の地域資源を発掘・活用。 ○取組を広めるためにフェイスブック・ブログで積極的に情報発信。
平成 24 年 度		【「学びのカフェ」ステップアップ】 ○ティディバア 着物リメイクで世界に発信（講演） ○ティーカップを学びながら「マイセン・ウェッジウッド入門」 ○夏のタベ ロビーコンサート 地元の演奏家 ○活断層 大竹は大丈夫？地震に強いまちを提案 ○知っておきたい相続の基本&日野原重明の100歳の金言 ○「ふしぎ探検！くらしの中の右・左」めくるめく左右不思議ワールド ○地理の先生の旅の楽しみ方「イースター島のモアイ像の謎」 等
平成 25 年 度～		【「地域ジン」誕生】 ○講座が定着し、参加者に仲間意識が生まれ、お互いを「地域ジン」と呼び合うようになり、講座名を「地域ジン学びのカフェ」とした。 ○講座の演題幕、名刺、ユニフォーム、幟、テーマソングCDを手づくりするなど積極的な活動が生まれた。 ○講座の中から自主組織「地域ジンまちカフェプロジェクト」が発足。 ○「見知らんガイドマップ&グルメスタンプラリー」、「古民家まちカフェ」、「まちの資料館」、「くばコレ」など多数の地域イベントが企画・開催されている。



対象	地域住民
経費	主催講座予算、各種助成金活用ほか
連携先	中学校、社会福祉協議会、企業等10団体

問合せ先

大竹市立玖波公民館

〒739-0651 大竹市玖波 1-10-1

電話：0827-57-7084 ファクシミリ：0827-59-0004

2 講座設定の理由（事業の目的）

○玖波地区は空き家・空き店舗が目立ち、独居高齢者が多く住民同士の繋がりも薄いなど、多くの課題があった。公民館は古く、講座もマンネリ化しており来館者も少なかった。そこで、公民館のイメージチェンジを図り、人が集う公民館とした。また、玖波の地域資源（歴史・文化・人材など）を生かし、ふるさとを愛する心を育みながら、学校・地域・公民館が連携・協働してまちづくりを行う取組を始めた。

3 学習目標

○玖波の地域資源（歴史・文化・人材等）について知る。
○公民館職員と「地域ジン」とが共に PDCA サイクルを構築し、ふるさとを愛する心を育くむと共に、住民が主体的にまちづくりに係ろうとする意欲を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

○玖波に眠っている宝物（歴史・文化・人材等）や世の中で話題になっている情報を集めるようにした。
○フェイスブック、ブログを活用し、積極的に情報発信し、協力・連携団体を増やして地域をまるごと巻き込むようにした。

5 留意点

○まちを変えるのは「人」であり、すぐに結果を求めず、継続して取組を進めた（諦めない姿勢が大切！）。
○少ない職員（常駐 1 人）と予算の中で、参加者の意識改革や多様な人を巻き込むための方策を考えた。
○地域の方が、やらされるのではなく、やりたいと思ってもらえるような取組になるように意識しておく。

6 成果

○参加者は平成 28 年度に 3,636 人ののぼり、協力・連携団体数は 21 団体になった。
○SNS 更新数は年間 365 回以上を達成した
○多世代間の住民の絆づくりが行われ、学校・地域・公民館の連携が取れるようになった。
○多くの参加者が自覚をもち地域の課題に取り組むようになった。
○平成 26 年度には文部科学省の第 67 回優良公民館表彰において最優秀館として表彰された。
○平成 27 年度には広島県チャレンジフォーラム 2015 地方創生 まち部門で表彰された。

7 課題

○まずは、地域の方が集まらないといけないし、地域課題に対することも、やらされているのではなく、やりたい気持ちにならないといけない。→平成 23 年度に「学びのカフェ」の開始
○中学校との連携は非常に難しかった。何年もかけて、やっと生徒が来るようになった。
○カルチャースクールとの差は、「学び」を地域に生かすということである。また、「人」と「人」のつながりをつくるのが大事であり、それは防災や防犯等、様々ことにつながり、まちづくりの基礎になる。

8 今後に向けて

○講座を継続開催し、地域におけるコミュニティエリアを拡大し、ふるさとを愛する心や地域を担う人材を一層多く育み、PDCA サイクルを働かせながら、地域全体を巻き込みながらあらゆる地域課題を発見し、その解決に向けて取り組んでいきたい。

古民家・空き店舗改造カフェ

地域を学ぶ	—	地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
平成 29 年 5月8日（月） 19:00～20:40	大竹市総合市民会館	①街を変える主人公をつくる講演会 （大竹青年会議所主催：5月例会）
平成 29 年 7月1日（土） 13:30～16:00	大竹市立玖波公民館	②まちづくりワークショップ（第1回） ・「まちの未来を本気で考えよう」玖波駅周辺の空き家対策を起点とした、地域活性化を考えるグループワーク
平成 29 年 7月29日（日） 13:30～16:00		③まちづくりワークショップ（第2回） ・「残したいもの」「改善したいもの」「創りたいもの」 →空き店舗の活用について提案
平成 29・30 年 8月頃～3月頃 土日等で作業可能な時間帯	イノベーターズハウス	④空き店舗の改築 ・地域住民の有志が土日を中心に作業 ・資材等は有志による持ち寄り
改装完了～現在 月1回程度 その都度時間設定		⑤毎月テーマを決めてミニ集会を開催 ・地域住民の興味のある話題 ・飲食、飲酒可で平日土日問わず開催可



対象	①まちづくり・地域づくりに興味のある市民 ②大竹イノベーターズメンバー ③④⑤地域住民
経費	①500円 ②③④参加費無料 ⑤必要に応じて徴収
連携先	大竹青年会議所，大竹市都市計画課，建物所有者，地域住民有志

問合せ先

大竹市立玖波公民館
〒739-0651 大竹市玖波 1-10-1
電話：0827-57-7084 ファクシミリ：0827-59-0004

2 講座設定の理由（学習の目的）

○地域に空き店舗や空き家が点在しているため、まちづくり・地域づくりのための活用に向けて住民が主体となって活動し、ネットワークの構築を図る。

3 学習目標

○地域内の空き店舗や空き家の効果的な活用について先進事例を学ぶ。
○地域内の空き店舗を活用して、地域の活性化のために住民が集える場所を作る。
○地域住民と一緒に空き店舗の活用に向けた作業（改装等）をすることで、住民同士の連帯感を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

○建物所有者との連絡・調整・連携
○改装に必要な物品や資材（地域住民の有志による提供）
○まちづくりワークショップの事前準備として、ファシリテーター勉強会を実施

5 留意点

○建物所有者に活動の目的や趣旨を丁寧に説明し、協力を得る。
○自分たちのものではないこと、費用や予算もないことが前提の活動であることを周知し共有しておく。
○建物はその後、所有者が変わったり売却されたりすることも想定しておく。

6 成果

○個人利用や利益を求めず、地域づくりのために空き店舗の活用について話し合い、その思いを形にして活用することができた。
○地域を活性化させるために住民がいつでも集える場所を提供することができた。

7 課題

○より多くの地域住民の方に利用をしてもらうためのしかけや工夫をする必要がある。

8 今後に向けて

○継続的な利用の促進・維持を図り、会場を利用したイベント等の企画を行う。

このまちにくらしたいプロジェクト

地域を学ぶ	●	地域でつながる	●	地域に還す	●
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成29年 5月28日(日)	古田公民館, アルパーク	オリエンテーション, 冒険あそび場 PR
6月11日(日)	古江西町公園	第1回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催
7月23日(日)	広島市中央公園	冒険あそび場体験実習①
8月20日(日)	古江西町公園	第2回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催
9月24日(日)	古田公民館	あそび場づくり企画ワークショップ①
11月5日(日)	古田公民館	あそび場づくり企画ワークショップ②
11月26日(日)	広島市中央公園	冒険あそび場体験実習②
12月17日(日)	古江西町公園	第3回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催
2月4日(日)	古田公民館	あそび場づくり企画ワークショップ③
3月4日(日)	古江西町公園	第4回冒険あそび場ワンダふるたパーク開催



対象	園児, 小学生, 中学生, 高校生, 大人 延べ615人
経費	53,347円 (内訳: 報償費 25,000円・需用費 28,347円)
連携先	多世代寺子屋ネットワーク, もとまち自遊ひろば「ゆうえん隊」, 古江西町町内会, 古江女性会, 古田学区子供会

問合せ先

広島市古田公民館

広島市西区古江西町 19-15

電話 082-272-9001 ファクシミリ 082-272-9001

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 少子高齢社会、人口減少社会等を見据え、中学生を主体に地域住民など多世代が連携し、地域課題に対応するまちづくり活動に取り組む。
- これらの学習や活動を通して、社会に主体的に関わり、行動する人材を育む。

3 学習目標

- プロジェクトをよりよくするためのアイデアを出し合い、企画・運営することができる
- 地域への愛着をもつと共に、自分にできることを実践しようとする意欲を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

- 意見を出し合う場の設定や雰囲気大切に、互いの意見を尊重するようにする。
- 記録（写真・アンケート等）を残し、改善につなげていく。
- 来場する保護者には、子供の活動を見守るようにお願いして、なるべく支援をしないようにしてもらう。

5 留意点

- 中学生以外にも、参加する高校生や大学生がゲスト的な立ち位置にならないよう、それぞれに遊びの企画をつくる課題提案を依頼し、自発的な意識づけを促す。
- 持続可能な取組にしていくために、事務的な手続きも徐々に連携団体に引き継ぎをしていく。

6 成果

- プロジェクトが開始してこの5年間に整備・蓄積してきた運営ノウハウを生かし、イベント実施回数を前年比倍増の年4回行うことができた。また、近隣の郵便局等で活動を紹介する写真展も実施するなど、住民向けの広報も積極展開している。これらにより、冒険あそび場の認知度は一層高まり、地域団体や住民等の支援や協力も充実しつつある。
- 中区基町で行われている「もとまち自遊ひろば」との交流活動の中から、SNSを活用した冒険あそび場づくりのネットワーク「つくるあそび場ねっとひろしま」が発足し、他地域の活動団体との情報交換や交流の場が生まれた。

《アンケート結果》

- 満足したと答えた来場者 93%
- イベント参加体験後、地域の公園に対する考え方が変容した人 85%

7 課題

- 募集時に中学1年生の参加が少なく、学年の偏りがあることから、次年度の世代交代時の影響が懸念されるため、募集方法の工夫が必要である。
- 予算の確保を助成金に依存しているため、運営経費の捻出に工夫が必要である。現在は公園でのバザー販売や寄付募集などができないため、カフェやおやつは無料提供している。子供会など地域団体等との連携なども視野に、地域行事としての支援を得やすい方向性を探りたい。

8 今後に向けて

- 中学生によるプロジェクトチームが「広島県こども夢基金」の助成を受けて、始動している。
- これまで来場者だった小学生が企画運営メンバーとして参加してきており、公園の主役である子供たちが、自分たちのあそび場を自分たちで作りだすことに期待している。
- 冒険あそび場ネットワークに参画し、あそび場マップづくりや交流シンポジウムなどを計画中しており、公園活用以外のテーマを探るとともに、プロジェクトとしての自立を促進するサポートを行う。

ふちゅう井戸端会議

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
第1回 平成30年 8月26日(日) 13:00~17:00	府中市 生涯学習センター	<ul style="list-style-type: none"> ○趣旨, 目的, 流れ等の説明 ○チェックイン (参加者の状態や気持ちの共有), アイスブレイク ○講師 (まちづくりに関わる人) の活動紹介 ○活動紹介の中で感じたことをグループ内と全体で共有 ○ワーク「まちづくりについて」「府中, あるいは自分の住んでいる町の好きなところは?」(2人組) でインタビュー ○興味・関心事が似た人とグループワーク ○全体シェア (各グループで出た意見を発表する)
第2回 9月30日(日) 13:00~17:00		<ul style="list-style-type: none"> ○趣旨, 目的, 流れ等の説明 ○チェックイン (参加者の状態や気持ちの共有), アイスブレイク ○ファシリテーション講座「場づくりの説明 (物理的デザイン+心理的デザイン)」 ○実際に様々な技法を体感する。
第3回 10月14日(日) 13:00~17:00		<ul style="list-style-type: none"> ○趣旨・目的・流れ等の説明 ○チェックイン・アイスブレイク ○講師のデザイン等活動の紹介 ○グループ交流「もっと知りたいこと」「ヒントが得られたこと」(4人組) ○質疑応答 ○チラシ作り講座 ○チラシ作りワーク (レイアウトを考える)



対象	まちづくりや市民活動に興味のある人
経費	講師謝金 37,800 円 (2日分打合含) 講師補助 5,760 円 (1回あたり), ゲスト講師 10,000 円 参加費無料
連携先	第1~3回 講師: 小谷直正 (ファシリテーションびんご) ゲスト: 水主川緑 (NPO法人府中ノアンテナ代表理事)

問合せ先

府中市教育委員会生涯学習課

府中市府川町 315 番地

電話 0847-43-7181

ファクシミリ 0847-46-3450

2 講座設定の理由（学習の目的）

- 学びの機会及び交流の場を提供することで将来の地域づくりを担う若手の人材を育成し、地域社会が活性化していくシステムを構築する。
- 地域の連帯感や支え合いの意識が希薄になってきている中で、人と人とのつながりを持てる場を設定することで、人と人とのマッチングや人材発掘に繋げる。

3 学習目標

- 全 体：まちづくりについて関心事を深めることとそれを形にするための技法を学ぶこと。
- 第1回：まちづくり活動している人の話を聴き、参加者のやりたいことを発掘し、参加者同士で交流する。
- 第2回：ファシリテーションの技法を学ぶ。
- 第3回：デザインの大切さを知り、実際に伝えることを重視したチラシをつくる。

4 事前に必要な知識や準備物

- ホワイトボード、模造紙、プロジェクター、スクリーン、名札、アンケート用紙等
- 講師との連携
- おかしや飲み物（カフェのような雰囲気づくり）

5 留意点

- 講師との打合せ（月1回以上）
- 広報（町内会回覧板、公共施設へのチラシ等設置、企業へのチラシ配布、HP、フェイスブック）
- 参加者にメールアドレスを聞いておくことで次回や別の事業の案内を送れるようにする。

6 成果

- 幅広く広報を行ったため、企業からの参加者もいた。
- 参加者同士をマッチングさせることができ、新たな活動に繋げることができた。
- アンケート結果：「活動したいと思った（50%）」「他の人の話に興味をもてた（50%）」

7 課題

- 対象が広すぎた。もう少し年齢層を絞るなどしていかないといけない。
- すぐにアウトカム（波及効果）が出るものではないため、経過についてアンテナをはって地域の情報を集めていかなければならない。
- 広報紙の内容が分かりにくいという指摘があった（どのような内容でどのようなことをするか）
- 設定時間が4時間だと長く感じる（実際はワークショップ等を行うので体感時間は短く感じるのだが）

8 今後に向けて

- 公民館の職員にも参加してもらってノウハウを学んでもらい、各公民館で職員がファシリテーターとなってまちづくりへの取組につなげていく。
- 対象を絞っていくとともに分かりやすい広報を心掛ける。
- 地域の行事とも重ならないような日程を組んで実施していく。

未来のタネを見つけよう

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 30 年 1月 24 日(水) 5・6校時	庄原市立 比和中学校	<p>○ワークショップ（中学校） テーマ：比和に住んでもらうために必要なこと（PR）</p> <p>①比和の自慢できる資源は何ですか？ ②それをどのように利用すれば、人を呼び込めると思いますか？ ③実現するために、自分は何ができますか？どんなことがしたいですか？</p>
2月 7 日(水) 5・6校時	庄原市立 比和小学校	<p>○ワークショップ（小学校） テーマ：比和の未来の種を見つけよう</p> <p>①比和の自慢できる資源は何ですか？ ②実現するために、自分は何ができますか？どんなことがしたいですか？</p>
3月 10 日(土) 10:00～ 12:30	比和自治振 興センター	<p>○開会行事・趣旨説明</p> <p>○小学生、中学生の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来へ残したいものと自分たちにできること（小学生） ・地域活性化のための提言（中学生） <p>○パネルディスカッション</p> <p>「子供達の提言を受けて、地域の活性化のために今後取り組むこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター：地域再生診療所 井上弘司 ・パネリスト：比和自治振興代表、子育てコーディネーター、庄原社教比和地域センター代表、PTA代表 <p>○全体総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域再生診療所 井上弘司



対象	比和町地域住民 120 人
経費	参加費無料 謝金支出など
連携先	比和小学校、比和中学校、庄原市役所比和支所、庄原市社会福祉協議会比和地域センター

問 合 せ 先	庄原市比和自治振興センター
	庄原市比和町 1991-1
	電話 0824-85-2600 ファクシミリ 0824-85-2421

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 少子高齢化の進展の中で少しでも人口減少を抑制するため、郷土に愛着を持つ子供、若者を育てる。
- 地域学校協働活動や子育て支援に力を入れて町外の方にも地域の良さを分かってもらい、この地域で子供を育てたいと思えるようにしていきたい。

3 学習目標

- 比和の魅力について気付く。
- 地域の宝を守り、残していこうとする意識を育てる。

4 事前に必要な知識や準備物

- 広報チラシ
- PPT資料
- コーディネーター、パネリストとの連携

5 留意点

- 三者（市役所比和支所、社会福祉協議会比和地域センター、比和自治振興センター）での連携を密に図り、方向性を共有しておく。
- 地域、学校が協働して地域で子供を育てるという意識を共有しておく。

6 成果

- 大人にとって当たり前だと思っていたものを子供たちが地域の宝として提案してくれたことでその良さについて再確認することができた。
- 子供たちの様子を見て、未来に地域の宝を残し、守っていかないといけないという大人の意識が変わってきた。

7 課題

- 地域づくりの学習はまだこれからであり、みんなで地域の宝を守り育てていくという意識を育てていく。
- 提案されたものを行動に移していくためにみんなが学んで行く必要がある。
- 人材が不足しているので連携先と役割分担をするなど組織の在り方を検討していく必要がある。

8 今後に向けて

- 子供たちが提案してくれたもの（そばクレープ、酒米で作った甘酒等）を形にしていく。
- 振興計画に沿って、大人も地域を見直し、何ができるかを考えていく

子育て支援者ボランティア学習会

地域を学ぶ	—	地域でつながる	—	地域に還す	●
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 30 年 2月 21 日(水) 10:00~ 12:00	佐東公民館	テーマ：わらべうたで子育て支援 ○わらべうたについて <ul style="list-style-type: none"> ・わらべうたとは ・わらべうたの分類 ・成長の段階をおって、人として大切なもの ・わらべうたは日本語のリズム ○実践してみよう <ul style="list-style-type: none"> ・手遊び ・集団遊び ・数遊び 等
平成 31 年 2月 13 日(水) 10:00~ 12:00		テーマ：絵本から始める子育て支援 ○大人から子どもへ～絵本を手渡しするためのアドバイス～ <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい時間の提供 ・コミュニケーションの道具（しつけや文字を覚えるものではない）等 ○読み聞かせでの本の持ち方，読み方 <ul style="list-style-type: none"> ・子どものペースで読む ・教育にこだわらない 等 ○絵本の選び方



対象参加者	子育て支援等の活動に携わっている方，子育て中の方，関心のある方 (参加者 29年度：17人，30年度：10人) 託児(29年度：1人，30年度：1人)(先着5人：無料)
経費	参加費0円 講師謝金 12,000円，監護謝礼金 1,800円(託児1組利用)
連携先	子育て支援者ボランティア

問合せ先

広島市佐東公民館

広島市安佐南区緑井六丁目 29 番 25 号

電話 082-877-5200 ファクシミリ 082-877-5200

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 公民館で子育て支援等に携わる活動をしている人（団体）に活動のステップアップとなる学習機会を提供する。
- ボランティア同士の情報交換・交流の場とする。

3 学習目標

- 子育て支援ボランティア活動する上で身に付けておくべき技能を身に付ける。
- 子育て支援ボランティア団体同士のネットワークを構築する。
- ボランティア活動への意欲を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

- 子育て支援者ボランティア（まほうのポケット、子育てサロン Sugar、図書ボランティア、託児ボランティア）へ案内する。
- 行事等の少ない2月に実施することで参加しやすいようにする。

5 留意点

- 子育て中の方も参加しやすいように託児付きとする。（託児ボランティアに監護者になってもらう）

6 成果

- 子育て支援者、子育て中・孫育て中の方がそれぞれ目的をもって参加されていた。
- 講師による学習会は大人自身が癒され楽しい学習の場となった。
- アンケート結果（今後の活用意欲 100%）「子供たちに伝えていきたい」「支援活動に活かしていきたい」とあり、ねらい通りの成果を得た。
- 託児付にしたことで子育て中の方の参加が得られた。

7 課題

- 参加者の中には、スキルアップまで望まない方もおられ、意欲を高めることが難しい。

8 今後に向けて

- 継続を望む声も多く、引き続き公民館として支援者への学習の場を提供していきたい。
（例）救急救命、AEDの使い方等

子育て応援交流会（井戸端かふえ）

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 29 年 7月 13日(木) 10:30~11:30	祇園西公民館	テーマ：こども（公民館まつりにあったら嬉しいもの） ○座談会 ・子育て世代と高齢者を繋ぐ場
平成 30 年 3月 8日(木) 14:00~16:00		テーマ：子どものころを育むあったか手づくりおやつ ○シフォンケーキの試作・試食 ○座談会
平成 31 年 2月 13日(水) 10:00~11:30		テーマ：健康・オーガニックについて話そう① ○座談会 ・子育て世代と高齢者を繋ぐ場（自己紹介），次回の予定
平成 31 年 3月 11日(月) 14:00~15:30		テーマ：健康・オーガニックについて話そう② ○座談会 ・興味・関心の高い健康づくりについて



対象	子育て世代，高齢者 延 30 人
経費	参加費：50 円（茶菓子代），200 円（シフォンケーキ材料費等）
連携先	祇園西公民館ボランティアグループ「子育て応援交流会」

問
合
せ
先

広島市祇園西公民館

広島市安佐南区長束六丁目 10-28

電話 082-874-5181

ファクシミリ 082-875-1760

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 子育て支援を軸とした多世代にわたる住民同士のネットワークづくり。
- 情報交換を通して子育て支援をきっかけとしたまちづくり事業の着眼点や企画力の向上。

3 学習目標

- 子育てに役立つ知識を得たり，技能を身に付けたりする。
- 子育て世代同士，及び子育て世代と高齢者とのネットワークを構築する。
- 子供を中心としたまちづくりについて考える。

4 事前に必要な知識や準備物

- ラベルワークに必要な物（付箋・模造紙・マジック等）

5 留意点

- 事業の目的を伝え，主催者の意図を理解して参加してもらうようにする。
- 話し合いの場では，参加者の意見が互いに尊重されるよう，職員が入りすぎないように心がける。

6 成果

- 自分たちの活動の目的を明確化し，記録として残したことで，適時目的に立ち返ることができ，話し合いの内容を深めることができた。活動もしやすくなった。
- 座談会も参加者だけで進行できるようになってきた。
- アンケート結果（満足度 100%）

7 課題

- メンバーが減り，限られた人数での活動が行き詰っているため，新規メンバーを募り活動の活性化を目指す必要がある。
- 子育て世代の参加が少ない回もあった。来てほしい人に情報が届くように SNS・ツイッターなど広報を検討する必要がある。（チラシを新聞等に織り込んでもらっているが，新聞をとっていない家庭もある。）

8 今後に向けて

- 中・長期的な視点をもって，独立したボランティアグループ化やリーダーの育成を目指す。

通学合宿

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 29 年 10月12日(木)	小谷地域 センター	○開所式 ○my コップと箸づくり (竹細工) ○班ごとのミーティング ○夕食 ○ナイトウォーキング ○反省会
10月13日(金)		○登校(P T Aの方が安全管理者として学校まで付添) ○キャンプファイヤー ○入浴 ○宿題 ○反省会
10月14日(土)		○朝食準備, 朝食 ○大丸目山登山 ○昼食, 片づけ, 清掃 ○閉所式 (参加努力賞の表彰, 班毎にチェックリストの報告, 総評)



対象	小谷小学校高学年の参加希望者 (4年生 - 12人 5年生 - 22人 6年生 17人)	
経費	○参加費を徴収 3,500円/1人あたり×51名=178,500円 ○まちづくり協議会 20,000円助成金(青少年育成費として)	合計 198,500円
連携先	○小谷小学校(校長, 教頭, 担任の先生方), 小谷小学校P T A(59名) ○地元自治会(小谷小学校区市民協働まちづく協議会) 女性部会(21名) 環境部会(6名) おやじの会(5名) 文化・青少年育成部会(6名) 広大生(4名) センター職員(2名)	

問合せ先

東広島市小谷地域センター
東広島市高屋町小谷 5560
電話・ファクシミリ 082-434-3758

2 講座設定の理由（事業の目的）

○地域における人間関係の希薄化に伴う子供達の体験活動不足やコミュニケーション能力の低下が懸念されており、子供たちのコミュニケーション能力や自主性を養う。

3 学習目標

○体験活動を通して、身に付けておくことが望ましい技能（ナイフの使い方や火の扱い方等）を身に付ける。
○異学年(4, 5, 6年生)との集団生活の中でコミュニケーション能力や自主性を育む。

4 事前に必要な知識や準備物

○企画～準備委員会の立ち上げと打合せ～実施～実施報告～反省会を含む流れは時間も要するため、きめ細かい準備が必要であり協力体制づくりを丁寧しておく。
○事前に児童の健康管理票及び承諾書の提出を義務づけている(規定様式)
○テーマに対するチェックリスト一覧表を作成(班ごとに自己管理する)し、今後の反省材料とする。

5 留意点

○参加への意欲を持たせるため4年生～6年生を通じて3年間、自主的に参加した者には「参加努力賞」の授与をする(29年度からスタートする6名を表彰する)
○規律ある集団生活を身に付けるため、全員が合宿に向けた意思疎通を図るテーマを設定し自主的、積極的に各自が目的に向かって活動できるようにする。
○異学年との集団生活は協力と創意工夫する事で自主的に行動をすることが期待でき、活動を通してコミュニケーション能力の育成の場とする。

6 成果

○参加者で班編成とリーダーの選任や利用する部屋に合宿テーマを掲示して毎日全員で確認することによって自覚と自主性、行動力を促し目標に向かって協力体制づくりができた。
○2泊3日の短期間での合宿は、よい思い出づくりや集団生活のルールについて考えることができ、望ましい人間関係づくりができた。
○積極的な意見交流と協力、スケジュールに合わせた自主的な行動、考える力などが養われた。

7 課題

○地域センターは限られたスペースであり、衛生面の設備不足(洗面、トイレ等)なので児童の参加人数が限られ最大でも50名迄であり、それ以上は受け入れるスペースがない。
○所持品には名前、忘れ物、毎年繰り返し伝えるが必ず最後に不明の物と忘れ物がある。

8 今後に向けて

○小谷地域センターの伝統的な事業であり、問題点、課題などは反省会で意見を述べ合って少しずつ改善レベルアップに繋げている。

オール重井で協働のまちをつくり隊

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
令和元年 8月1～2日(木・金) 14:00～22:00 6:30～12:30	尾道市重井公民館	① 宿泊体験学習 ・地域の方の講話(5名) ・防災体験学習(尾道市総務課)
令和元年 9月14日(土) 10:00～12:00		② 敬老会 ・生徒代表による作文朗読
令和元年 11月1日(金) 14:00～16:15		③ 重井中学校 おのみち「心の元気」ウィーク ・道徳授業地域公開 テーマ「郷土愛」 ・パネルディスカッション
令和元年 11月10日(日) 10:30～12:00		④ 重井町民文化祭・重井中学校文化祭 ・リサイクルバザー運営 ・生徒の授業作品展示, 合唱披露
令和元年 11月22日(金) 13:50～16:35		⑤ 重井中学校 公開授業研究会 ・公開授業(道徳・総合的な学習の時間) ・パネルディスカッション



対象	①8/1:重井中学校1年生 8/2:重井中学校全学年 ②重井中学校生徒代表 ③④⑤重井中学校全学年・保護者・地域住民
経費	①1,000円(バーベキュー材料費, 朝食(パン・牛乳)費, 昼食(非常食)費 ①③⑤需用費3,000円 役務費9,700円(広島県公民館等活性化モデル事業助成金) ②④参加費等無料
連携先	尾道市立重井中学校, 同卒業生(北ライター), 尾道市総務課, 岡本製作所, 除虫菊坂総会, 白滝公園保勝会, 重井町区長会, 福山市立大学

問
合
せ
先

尾道市重井公民館

〒722-2102 尾道市因島重井町 2978

電話: 0845-25-0016 ファクシミリ: 0845-25-0835

2 講座設定の理由（学習の目的）

- 子供たち及び地域住民の公民館への親近感を醸成する。
- 子供たちのコミュニケーション能力や問題発見解決能力、情報活用能力を育成し、自主性や協調性を育む。
- 地域住民のちからを結集したまちづくりを推進する。

3 学習目標

- 重井町の自然や歴史・文化・産業などについて知る。
- 長年に渡り、重井町を支えてこられた高齢者と交流することで、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 地域の災害を通して地域防災について考えることで、郷土愛と主体性を育む。
- 地域課題の解決につながる研究と提案を行うことができる

4 事前に必要な知識や準備物

- 重井中学校，ゲストティーチャー，パネリストの連携（学習内容・時期・講話内容等）
- 尾道市総務課と講義・演習内容の確認・連携（防災学習等）
- 宿泊研修に必要なもの（食料・寝具等一式）

5 留意点

- 中学校と公民館の役割や分担を明確にする。
- 中学生が主体的に地域のこれからを考える場にする。
- 公民館で活動をする意義を学校と常に共有し、趣旨に沿ったメニューを提供する。
- 学習や活動の目的に沿った講師を地域や卒業生から発掘する。

6 成果

- 中学生が主役となる活動の場を仕組むことで、自主性や郷土愛を育むことができた。
- 地域課題の解決や地域防災の取組等について、中学生と地域住民と一緒に学ぶことができた。

7 課題

- 学校選択制等により、重井町から他地域へ進学している生徒の参加・交流機会の確保について検討する必要がある。

8 今後に向けて

- 今後も重井中学校と連携を密に行い、事業を継続していく。
- 地域住民との交流を通して、新たなゲストティーチャーや団体等を発掘する。

防災フェア in 向東

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 29 年 8月5日(土)	向東公民館	各団体長に協力依頼
11月6日(月)		連携団体へ「防災フェア」実施説明会
平成 30 年 12月2日(土)		防災フェアの具体的活動の打合せ会（小・中学生含）
1月13日(土)		小学生・中学生との最終打合せ （子供の役割，司会・クイズの出題，活動説明・炊き出し等について）
1月20日(土)		前日準備，団体・対象の子供との交流
1月21日(日)		防災フェア in 向東 ○防災グッズ展示と説明○防災クイズ大会○防災マップづくり ○段ボールで簡易トイレづくり○負傷応急処置の方法○炊き出し体験 ○講演（被災者の体験談）



対象	各種団体長，各種団体 小学生 中学生
経費	60,643 円 （内訳：・需用費 21,584 円・役務費 12,000 円・食糧費 27,059 円）
連携先	区長会，社会福祉協議会，公衆衛生協議会，民生委員会，体育協会，女性会，老人会，保健推進委員会，消防団，地域包括支援センター，防災アドバイザー，向東小学校，向東中学校，向東小 P T A，向東中 P T A，尾道市総務課生活安全係

問合せ先

尾道市向東公民館

尾道市向東町 8670-2

電話 0848-44-3955

ファクシミリ 0848-44-3955

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 各種団体・小中学校が繋がり、安心・安全に暮らせるまちの基盤づくりとして、公民館を核とした地域の防災力の向上を図る。
- 子供たちの自主・自立性を育てると共に、地域で子供を育てる風土をつくる。

3 学習目標

- 防災グッズの展示や説明、防災クイズ、講演等を通して、「自助」「共助」「公助」の考え方を知る。
- 簡易トイレを作ったり、応急処置をしたりすることができる。
- 地域で協力して防災を行っていくという意識を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

- 当日までの準備を5回行った。この準備が重要でありここで地域のネットワークづくり・地域の活性化に繋がる取り組みができた。

5 留意点

- 企画段階から小中学生にも参加してもらうことで、子供たちの自主性を高められるようにした。
- 「防災」を1つの手段として地域の子供から大人までが繋がる場を設定した。

6 成果

- 地域住民の当日参加が100人近くあり、防災意識の高さが伺えた。（スタッフは109人・計201人）
- 向東町の16団体を網羅して、ひとつの行事に向けて協働できた。
- 子供達が、企画の段階から積極的に関わり、生き生きと活動しており、防災意識の育成に繋がった。
- どのブースも大人のスタッフが、子供たちを全面的に支援・指導して活躍の場を与えてくれた。

（アンケート結果：肯定的評価100%）

「地域住民の繋がりの大切さ」「子どもと共に行う行事の有用性」「公民館の地域活性化への役立ち感」

7 課題

- 他の行事と重なってしまったため、当日の子供の参加数が少なかった。特に中学生の当日参加はなかった。（スタッフとして参加のみ）
- 大人と子供と一緒にやって行事を行ったが、三世代交流ができたと感じた人の割合が他の項目より低かった。

（アンケート結果：肯定的評価94.4%）

「大人と子供と一緒に活動することで、三世代交流ができた」

8 今後に向けて

- 行事がひとつのイベントとして終わらないようにするために、事業が繋がるよう連続性を持たせたい。（平成30年度：地域の宝を探せ大作戦～環・輪・和・話で繋がるまちづくり～）

防災訓練&炊き出し訓練

地域を学ぶ	—	地域でつながる	●	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 30 年 10 月 31 日 (水) 18:30~ 21:00	□和自治 振興セン ター	<div style="background-color: yellow; padding: 2px;">「DIG」(ディグ) 図上訓練</div> ①グループリーダー，発表者の決定（自治会ごと） ②地図上にあるものを書き込む（青：川，茶：主要道路，緑：学校等） ③防犯拠点にカラーラベルを貼る（青：消防署，赤：警察，緑：避難所等） ④知っている防災情報や「防災まち歩き」で見つけたものを記入する （緑：安全な施設，青：災害時に役立つ場所，赤：危険な場所等） ⑤避難場所までの経路を記入する。 ⑥発表（3班） ⑦防災，災害対応の視点から見て，自分達の住む地域の特徴を記入する。 ⑧土砂災害ハザードマップで色分けする （黄：土砂災害危険区域，赤：特別警戒区域等） ⑨発表（3班） ⑩災害を想定 ⑪想定した災害が発生した場合の対応の仕方を話し合う（被害想定，事前準備等） ⑫発表（3班） ⑬講師の評価と座学（行政による避難情報と求められる行動について等） ※防災グッズや非常食の展示，炊き出し（女性部）



対象	自治会役員，消防団， 72 人
経費	講師謝金：0円（県の危機管理課職員のため）
連携先	庄原市社会福祉協議会 □和地域センター， □和自治振興区 女性部 庄原市消防団 □和方面隊，庄原警察署 □和駐在所

問合せ先	庄原市□和自治振興センター 庄原市□和町向泉 934-4 電話 0824-87-2213 ファクシミリ 0824-87-2135
-------------	---

2 講座設定の理由（学習の目的）

○住民自らが居住地域の危険箇所を熟知すると共に、地域コミュニティの強化を図り、防災、減災に地域を上げて活動し、災害発生時には、速やかな避難や命を守るための対応が行えるようにする。

※DIG（ディグ）

参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練。Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の頭文字を取って命名された。

3 学習目標

○地域の危険箇所や防災拠点等について知る。

○防災について住民自らが自分のこととして考え、「自助」「共助」の意識を高める。

4 事前に必要な知識や準備物

○防災グッズ、非常食

○町内地図（A1サイズ）、○防災マップ

○シール、マジック、ビニールシート（地図上のからマジックで書くため）等

5 留意点

○防災に関する一般的な話ではなく、具体的な話ができるようにする。（高齢者や危険箇所が多い地形に対応）

○参加者が考えた避難方法を生かせるようにする。

6 成果

○防災意識を高めるところができた。（災害時には、どこのエリアが危険であって避難する際には何に気をつければいいか知ることができた）

○どこにどのように避難するか具体的な話し合いができ、共通認識を図ることができた。

○テレビの取材もあり、研修の様子を広く広報することができた。

○防災啓発ビデオ（自主防災組織立ち上げ）を作成し、今後立ち上げの可能性のある自治会に見てもらった。

○災害用伝言ダイヤル疑似体験ビデオを作成し、他の研修でも利用することができた。

○防火、防災に伴い地震対策のビデオも作成した。

7 課題

○福祉避難所の確保（要介護者への対応、町内の福祉施設との提携）

○自治会の役員の高齢化、固定化による業務の負担感

○研修の設定時間が限られており（夜2～3時間）、できる内容が限られてくる。

8 今後に向けて

○自治会の会議等の機会がある度に防災の話（防災啓発ビデオ）をすると共に、ビデオの貸し出し等も行い、広く周知していく。

○避難所の運営訓練を行うことで自主防災組織のイメージをつくる。

○「公助」には限界があり、「自助」「共助」による補完体制を整備していく。

東野発「災害をきざむ 地域をつなぐ」プロジェクト

地域を学ぶ	○	地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
平成31年 2月6日(水)・8日(金) 10:00~11:00 9:00~11:30	竹原市東野地区 (被災箇所・地域等)	①「東野町をたすけ隊」(東野小学校)の支援 ・被災した個所や地域等を児童と回り、被災者の声を聞きながら、防災マップを作る。
令和元年・2年 12月12日(木)・2月6日(木) 9:30~12:30	竹原市東野地域交流センター	②サンキューライスプロジェクト ・東野小学校5年生児童に、もち米の活用について提案し、おはぎ・赤飯づくりの場をコーディネートする。
令和元年 6月17日(月)・7月23日(火) 9:00~11:00 13:00~14:00	竹原市東野地区 (史跡・名所等)	③「東野町歴史探検隊」(東野小学校)の支援 ・地域の名所や史跡を児童と回り、学んだことを創作劇にして人・歴史・想いをつなぐ。
7月29日(日) 9:30~12:30	竹原市東野地域交流センター	④ひがしのキッズ(世代間交流子育て支援事業) ・郵便局から講師を招き、子供たちと保護者が絵はがきづくりを楽しむ。
11月17日(日) 9:00~12:00	竹原市東野地域交流センター 竹原市立東野小学校	⑤全校児童と地域住民による合唱披露 ・合同で合唱練習を行い、「ふるさと東野」「おりづる」「花は咲く」を発表会で披露する。
11月30日(土) 13:00~16:00	竹原市東野地域交流センター	⑥東野平和音楽祭 ・子供たちと地域の戦争体験者の話を聞き、合唱や演奏を行い、平和を願う心を発信する。
12月21日(土) 10:00~12:00		⑦ひがしのキッズ(世代間交流子育て支援事業) ・子供たちと住民と一緒に段ボール巨大迷路づくりやゲーム大会を楽しむ。
2月23日(日) 9:30~16:00	竹原市立東野小学校 竹原市東野地区 (被災箇所・地域等)	⑧グラウンドゴルフ大会・防災マップ地域巡り ・子供たちと地域住民がグラウンドゴルフで交流した後、防災マップを使って地域を巡る。

※①②③⑤は新規事業、④⑥⑦⑧は従来から実施の事業をリデザインして開催



対象	①②小学生(5年生) ③小学生(6年生) ④⑤⑥⑦⑧小学生・地域住民
経費	全て参加・活動費無料 (但し、事業に係る諸経費は ②竹原市立東野小学校、⑥東野町協働の町づくりネットワーク、⑦青少年育成会議東野地区、⑧東野町社会福祉協議会・東野町自治会が負担)
連携先	竹原市立東野小学校、青少年育成会議東野地区、東野町社会福祉協議会、東野町協働の町づくりネットワーク、東野町自治会

問合せ先	竹原市東野地域交流センター 〒725-0004 竹原市東野町 887 電話・ファクシミリ：0846-29-0546
------	---

2 事業設定の理由（事業の目的）

○竹原市東野地区は、平成 30 年 7 月豪雨で甚大な被害を受けた。それを契機に地域交流センターが学校と地域をつなぐコーディネート機能をさらに果たせるよう、これまでの事業の見直しと改善を行うとともに、「災害をきざむ 地域をつなぐ」をテーマに学びを通じた人づくり・地域づくりを行っていく。

3 事業目標

○地域の子供たちの学習や活動を支援し、多世代・次世代の住民に地域の歴史や災害から学んだ教訓を伝承していく。
○地域の子供たちと住民が積極的に関わり、協働することができる場やコンテンツを提供する。

4 事前に必要な知識や準備物

○地域の小学校と連携・調整、及び学習・活動に関わるニーズの把握
○災害後の東野地区の現状を踏まえた地域課題とニーズの把握

5 留意点

○平成 30 年 7 月豪雨で甚大な被害を受けていることから、被災者心情に配慮する。
○事業や行事の本番や当日だけでなく、準備・練習段階といった前後の過程も子供たちと地域住民が時間を共有し、協働できるように配慮する。

6 成果

○被災した事実を子供たちと地域住民が共有し、共に手を携えながら地域を支えていく心情を育むことができた。
○学校側から、地域交流センターを核とした学習や活動に関する相談や依頼が増え、その内容も年々充実してきた。

7 課題

○少子高齢化が進む中で、この 10 年間で世帯数はあまり変化はないが、小学校の児童数が半減し、事業に関わったり参加したりする児童・保護者も減少しているため、事業内容や規模、時期を検討する必要がある。
○地域の住民が事業の企画・運営に主体的に参画する機会が少なく、地域交流センターや職員への依存度も高いことから、その負担も大きくなってきている。

8 今後に向けて

○地域の若い世代の住民が参加者から「参画者」となり活躍できるように、事業や場をコーディネートしていく。
○東野地区に由来からある地域資源を活用しながら、事業をリデザインして地域づくりへとつなげていく。

郷土料理本「残しておきたいおふくろの味」

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 24 年 ～ 平成 30 年 毎月 1 回 9:00～ 12:00	神石協働支援センター (旧神石公民館)	<p>○伝統食・行事食等の郷土料理の掘り起しとレシピ化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 18 年「いきいきふれあい教室」結成 ・平成 24 年「残しておきたいおふくろの味」誌を発刊 <p>○新たな郷土料理等の掘り起し、当時の古い食器類の発掘・レシピ化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度（14 回，延べ 119 人，料理約 50 品） ・平成 27 年度（18 回，延べ 148 人，料理約 60 品） ・平成 28 年度（21 回，延べ 108 人，料理約 30 品） ・平成 28 年度後半は，資料の整理，料理等の手直しを中心に行った。 ・平成 29 年度後半から，出版社との調整と校正を数度に渡り行った。 ・平成 30 年「続・残しておきたいおふくろの味」誌を発刊



対象	いきいきふれあい教室の会員 6 人
経費	印刷・製本費：約 160 万円 各回参加費：実費（食材費等）
連携先	神石高原町内全小・中学校，「こんにゃくづくり」「豆腐づくり」等各講座

問合せ先

神石町神石協働支援センター（旧神石公民館）
神石郡神石高原町高光 2117-10
電話 0847-87-0181 ファクシミリ 0847-87-0331

2 講座設定の理由（事業の目的）

○少子高齢化が進む中、伝統文化継承の取組として、「食文化」に着目し、郷土料理本の作成を行うことで、地域の伝統を守ると共に高齢者の活躍の場を設ける。

3 学習目標

○郷土料理の掘起こしを行う中で、各地域の長年の知恵や工夫により、身近な食材を利用して、多種多様な郷土料理が作られていることを知る。
○高齢者の活躍の場を設けることで生きがいをもてるようにする。

4 事前に必要な知識や準備物

○出版社との打合せ
○本に載せるレシピの選考

5 留意点

○月毎に開催日を決めることで、会員が参加しやすいように柔軟に対応できるようにする。
○活動毎に振り返りの時間を設け、各回の反省と次回に取り組むテーマを決め、会員交代で講師になる。
○料理別に担当者を決めることで役割を明確にし、料理手順を撮影、終了後料理毎に反省とレシピ等のまとめを行う。

6 成果

○活動を通して、参加者の意識も変わってきており、地域での「生きがいづくり」や「まちづくり」へとつなげることができている。
○本に掲載されたこんにゃく料理が「神石高原ランチ」として町内全小中学校の給食メニューの中に取り入れられ、給食放送等を通じて、御飯を中心とした一汁一菜の日本古来の食事の大切さや、早起きして朝食をつくり食べることの大切さを児童生徒に啓発されている。
○会員の高齢化が進み、会員数が減少したが、続編作成という目標を設定して、郷土料理（伝統食・行事食・保存食）の掘り起こしを継続してきた。

7 課題

○高齢化により会員数が減少しており、掘り起こしや資料の整理等の継続が難しかった。
○少子・高齢化により後継者に伝えていく機会等が少なくなっている。
○老老介護等の現状を抱えて、会員の集まりが悪い時が多々あった。

8 今後に向けて

○地域の行事で講師として郷土料理を紹介し、啓発活動を行う。
○保育所、小・中学校、高等学校等と連携し、ゲストティーチャーとして味噌作りの指導をしたり、協働支援センターでは地域の子供たちを対象にクッキング教室を実施し食事の大切さを伝えたりする。

満喫！かべ学「ボランティア養成講座」

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	●
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 29 年 月 1 回程度 13:30~15:30	可部公民館・ 可部地区一円	○定例会 ・年間計画作り等 ○定期学習会（現地を見る，現地の人のお話を聞く，資料の作成） ・勝圓寺の歴史，品窮寺の歴史，散策マップ等
①7月22日(土) ②8月26日(土) 10:00~12:00	可部公民館	専門的な学び（講師：可部郷土史研究会） ○「可部のまち歩きボランティアガイド」養成講座①② ・「可部のまち」を知る～可部のまちは，どのように生まれたのか？～
9月24日(日) 13:30~16:00	可部公民館 可部地区内	専門的な学び（講師：可部夢街道まちづくりの会） ○「可部のまち歩きボランティアガイド」養成講座 ・可部のまぢめぐり
1月27日(土) 10:00~12:00	可部公民館	専門的な学び（講師：可部郷土史研究会） 日本の文化「家紋」を学ぶ
10月15日(日) 9:00~16:00	可部地区内	ガイド実践「可部のまぢめぐりガイドを しよう」
10月19日(木) 13:30~15:30	可部公民館	ガイド実践反省会
平成 30 年 ①2月12日(月) 13:00~15:00 ②2月26日(月) 13:30~15:30	可部駅～ 河戸帆待川駅	ガイド実践「終着駅サミット in 広島」に むけて ①（コース下見）②（予行演習） 「可部さんぽ」可部駅～河戸帆待川駅
3月1日(木) 13:30~15:30	可部駅～あき 亀山駅	ガイド実践「終着駅サミット in 広島」にむけて（予行演習） 「可部さんぽ」可部駅～あき亀山駅
3月4日(日) 9:00~11:00	可部駅～あき亀山駅 可部駅～河戸帆待川駅	ガイド実践「終着駅サミット in 広島」 「可部さんぽ」可部駅～河戸帆待川駅，可部駅～あき亀山駅
3月25日(日) 10:15~11:15	明神公園他	ガイド実践 「可部のまちあるき」可部の舟運案内
対象	地域の歴史に興味があり，ガイドになりたいと思う地域の方 19名	
経費	講師料：6,000円×2時間×4回 参加料無料	
連携先	可部ガイドクラブ，可部郷土史研究会，可部夢街道まちづくりの会	



問
合
せ
先

広島市可部公民館

広島市安佐北区可部三丁目 19-22

電話 082-814-4031 ファクシミリ 082-814-4721

2 講座設定の理由（事業の目的）

○以前からあったガイドクラブやまちづくりの会のメンバーの高齢化により、ガイドができる人が減ってきており、古い町並みが残る歴史文化のある可部の町を広く伝えていくためにも、ガイドが出来る人を増やしていく。

3 学習目標

- 可部の歴史について知る。
- 学習と実践を交えてガイドの知識とスキルの向上を図る。
- ボランティアガイドになって、地域の魅力を伝えるとともに、地域への愛着を深める。

4 事前に必要な知識や準備物

- コースの下見，予行の実施
- HPや公民館まつりで発信していく。

5 留意点

○新規の方と以前からおられる方には知識量に差があるため、基本的な情報の共有と新たな知識の蓄積を目的とし講座を進めていく上で配慮する。

6 成果

- 養成講座の後，継続してガイドをする人は4人，一年前の修了生を含め計8人となった。更に以前から活動されているガイドクラブの方（5名）に学びながら積極的に実践にチャレンジして少しずつ自信をつけている。
- 「終着駅サミット in 広島」に参加された方（県外含）たちに実際にガイドをすることができた。この他にも山歩きの家や広島シニア大学等からもガイドの依頼がきている。

7 課題

- これまで数多く可部の紹介ブックが作成されているが、ガイド用のテキストとして整理されたものがない。
- 歴史を学べば学ぶほど、話したいことが増え、ガイドの説明時間が長くなることもある。
- ガイド希望者を対象にガイド養成講座を実施したが、間口を狭めることとなり新たな人材の発掘につながりにくい。
- 様々な理由で結果的にガイドにならない方もいる。

8 今後に向けて

- ガイド養成講座とするのではなく、学ぶことを中心とした講座「満喫！かべ学」で歴史について学ばれた方の中からさらにガイドに関心のある方に声をかけるようにしていく。
- 新規のガイド用のテキストブックを作成することで経験値による差を埋めるようにする。
- 新規のガイドコースを作る。
- 歴史を学ぶだけでなくガイド力（プレゼン能力・説明力・資料・心構え・時間配分等）の育成を図るプログラムを実施していく。

「子ども西国街道ぶらり旅～井口編～」 ボランティアガイド養成講座

地域を学ぶ	○	地域でつながる	○	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
令和元年 7月21日（日） 9:30～11:30	広島市井口公民館	①講習Ⅰ ・ガイドテキストや地図等により、井口地区の歴史・史跡・山陽道について学ぶ。
令和元年 7月28日（日） 9:30～11:30		②講習Ⅱ ・講習Ⅰの内容を踏まえてガイドをする際の原稿を作成し、実際の話し方について学ぶ。
令和元年 8月25日（日） 9:00～12:00	広島市井口公民館 西国街道井口地域	③現地リハーサル ・コースを回りながら、ガイド内容を確認し、当日のシミュレーションを行う。
令和元年 9月15日（日） 9:00～12:00	西国街道井口地域	④「子ども西国街道ぶらり旅～井口編～」 ・参加者（小学生・保護者）に、コースを回りながら名所や史跡のガイドを行う。



対象	①②③④中学生以上 ④小学生（1・2年生は保護者同伴）
経費	①②③④参加費無料 報償費：48,000円（井口・鈴が峰魅力づくり委員会の講師4名分） ※但し、④の9/15（日）に、参加者へ提供したかき氷とわた菓子の費用は、井口・鈴が峰魅力づくり委員会・井口学区子ども会育成協議会が負担
連携先	井口・鈴が峰魅力づくり委員会、井口学区・井口明神学区子ども会育成協議会、広島市立井口小学校、広島市立井口明神小学校、広島市立井口台小学校、広島市立鈴が峰小学校、広島市立井口中学校

問合せ先	広島市井口公民館 〒733-0843 広島市西区井口鈴が台 2-14-8 電話・ファクシミリ：082-277-9258	広島市鈴が峰公民館 〒733-0852 広島市西区鈴が峰町 44-1 電話・ファクシミリ：082-278-7599
------	--	--

2 講座設定の理由（学習の目的）

- 地域の名所や旧跡をガイドする、中学生以上のボランティアガイドを養成することで、地域への関心を高め郷土愛を育む。
- ボランティアガイド養成講座修了者が小学生・保護者に対して、地域の名所や旧跡をガイドすることで、達成感を味わう。

3 学習目標

- 地域の方との交流を通して、井口地域に残る名所、旧跡について学び、子供たちへ伝えていくことの意義について考える。
- 講習で学んだことを生かして、子供たちへ分かりやすく伝えられるよう、内容や話し方を工夫して何度もシミュレーションを行うことで、実際のコースを回りながらガイドを行うことができる。

4 事前に必要な知識や準備物

- 井口・鈴が峰魅力づくり委員会と講義内容について確認（テキストの印刷・製本）
- 小中学校と連携し、ボランティアガイドと当日の参加者の募集
- 井口・鈴が峰魅力づくり委員会、井口学区・井口明神学区子ども会育成協議会と当日の運営（コース・班編成、引率者、わた菓子・かき氷の準備等）について連絡・調整

5 留意点

- 講習会やガイド当日に中学生（ボランティア養成講座の参加者は中学生のみだった）のボランティアガイドが都合等により急遽欠席となる場合があるので、一人が複数か所のガイドをこなせるように準備（練習）しておく。
- 9月は気温が高いことが見込まれるため、熱中症対策を十分に行う。
- 成果と課題を把握するため、ボランティアガイドと参加者の双方にアンケートを行う。

6 成果

- 多世代の地域住民と一緒に井口地域の名所や史跡を巡り、歴史を学ぶことができ、地域への関心を深めることができた。
- ボランティアガイドの中学生が参加者の小学生等にガイドを行うことで、地域のために協働して活動する達成感を味わうことができた。

7 課題

- 散策コースがある地域外からは、遠方となり参加しにくい状況があるため、地域外の方も興味を持てるようなコースの設定やプログラムの工夫について検討する。
- 井口・鈴が峰魅力づくり委員会のメンバーが高齢化しているため、講師役となる後継者の育成方法や開催時期（熱中症対策）について検討する。

8 今後に向けて

- 参加者が中学生のみにならないように、地域の成人の参加を広く呼びかけて、ボランティアガイド養成講座修了者が将来的に、井口・鈴が峰魅力づくり委員会のメンバーとして活動できるような体制・環境を整える。
- ボランティアガイドを経験した中学生が後継者となり、自主的に活動できるような、プログラム内容を検討する。

地域の宝・歴史学習

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成 30 年 7月 14 日(土) 10:00 ~ 11:30	福田公民館	①テーマ：歴史セミナー【夏編】 ～福田型銅鐸と奴国弥生時代の国々～ ○福田の歴史を学ぶ ・なかずの池，行基仏像，木の宗山城主等
7月 22 日(日) 9:30～11:30		②テーマ：福田まなび塾 ～福田の歴史と銅器づくり～ ○福田の歴史について ○銅剣，銅鐸，銅戈づくり
11月 17 日(土) 9:30～12:30	地域	③テーマ：歴史セミナー【秋編】 ～謎の福田型「銅鐸」，行基作「念持仏」に魅せられて～ ○福田地域の史跡散策 ・銅剣，銅鐸，銅戈出土地（烏帽子岩），なかずの池等
平成 31 年 3月 2 日(土) 9:30～13:00		④テーマ：地域の宝「木の宗山」の清掃登山 ○登山道の清掃 ・福木幼稚園の木の宗山卒業登山の前に登山道を清掃，整備する。 ○福田の歴史を学ぶ ・木の宗山（登山道の烏帽子岩にて） ○昼食（カレー）



対象	①③④地域住民 ②小学生（2年生以下は保護者同伴）
経費	①③④参加費：無料 ②参加費：500円（材料費） 講師謝金：0円（歴史文化保存会，老年会連合会）
連携先	福田歴史文化保存会，福田老年会連合会，福田地区社会福祉協議会，福木女性会

問
合
せ
先

広島市福田公民館

広島市東区福田四丁目 4152-1

電話 082-899-2901 ファクシミリ 082-899-2901

2 講座設定の理由（事業の目的）

- 銅剣，銅鐸，銅戈が出土した木の宗山や地域の歴史を知ること，地域への愛着を深める。
- 地域住民同士のつながりが希薄化する中で，清掃登山活動を行うことで，いろいろな世代の地域住民の交流の場を設ける。

3 学習目標

- 福田の歴史について知る。
- 地域への愛着心・関心を高める。
- 地域住民同士の交流を深める。

4 事前に必要な知識や準備物

- 講師との連携（歴史文化保存会，老年会連合会等）
- 各団体との連携
- 雨天時の対応（順延や短縮等）
- 安全面での配慮（史跡散策，清掃登山）

5 留意点

- 中学生にも清掃活動に参加してもらうことで，ボランティア意識を高めるとともに，中学生と地域住民との交流の場となるようにする。

6 成果

- 清掃活動は長年にわたる取組であるため，他団体との連携や運営もスムーズに行うことができている。「また参加したい」等の肯定的な声が聞かれ，リピーターも多く参加している。
- 幅広い世代に福田の歴史について学んでもらうことができている。
- 長年住んでいても「木の宗山」へは初めて登ったという方もおられ，地域を知る機会となっている。
- 幼稚園にも卒業登山前に地域の歴史をまとめた紙芝居を朗読のグループが読みに行っている。

7 課題

- 講師が高齢のため今後の後継者が心配である。
- 雨天時の対応を考える。（清掃登山においては，後日有志だけで清掃活動を行う）

8 今後に向けて

- 今後も他団体と連携をしながら継続していく。
- 講師も高齢のため，後継者になる方を意識しておく。参加者の中から後継者が育つとよいが，参加者のプレッシャーにならないようにしていかなければならない。

地元の素材で和紙作り

地域を学ぶ	●	地域でつながる	—	地域に還す	—
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習内容
平成31年 1月19日(土) 10:00~ 12:00	協和公民館	<p>○趣旨, 目的, 流れなどの説明</p> <p>○楮(こうぞ)を切る。 ・鎌を使って楮を切る。</p> <p>○楮の皮をむく ・蒸した楮の皮を熱いうちにむく。 (なるべく一枚の皮になるように気を付ける)</p> <p>○紙を漉く ・はがきサイズの和紙が作れる簀桁(すげた)を使う。</p> <p>○振り返り</p> <p>【和紙ができるまでの工程】 ①木を刈り取る②蒸す③皮をむく④皮の表面を削る⑤水にさらす⑥煮る⑦再度水にさらす⑧ごみをとる⑨繊維をほぐす⑩とろろあおいを水に浸す⑪紙を漉く⑫漉いた紙を積む⑬水気をとる⑭乾かす</p>



対象	小学生・保護者
経費	参加費 300 円
連携先	府中明郷学園, 地区女性会

問合せ先

府中市協和公民館

府中市木野山町 48-1

電話 0847-68-2121

ファクシミリ 0847-68-2121

2 講座設定の理由（事業の目的）

○集落が谷間に位置し、土地も狭く稲作が発展しにくい中で、産業として江戸時代から和紙作りに取り組んでいる。地域の産業を伝えると共に特産品について学んだり、製作体験をしたりすることで地域への愛着を深める。

3 学習目標

○子供たちと地域住民との結びつきの強化
○子供たちの自主性・協調性の育成
○伝統文化の継承

4 事前に必要な知識や準備物

○説明資料（和紙づくりの流れを示したもの）
○原料（楮）や和紙作りの道具（簀桁）

5 留意点

○子供が対象なので長時間にならないようにする（長くても3時間程度）。
○鎌を使ったり、皮を剥いたりする活動をさせるため、安全面に配慮する。

6 成果

○小学校では「総合的な学習」でも和紙作りに取り組んでおり、積極的に質問をするなど意欲的に参加していた。
○鎌を使ったり、和紙を漉いたりするなどの普段できないことを体験することができた。
○子供たちが和紙作りの看板を作成し、寄贈してくれた。

7 課題

○小学校の授業との連携で公民館を活用しているが、この活動をきっかけにして普段から公民館に来てもらえるようにしていく。（5つの公民館に対して小学校が1つなので厳しい面もある）
○保護者の送迎がないと事業への参加が難しい。

8 今後に向けて

○今後も小学校と連携をとりながら進めて行く。
○将来的には和紙を生かしたランプシェードなど発展的なものを作成していきたい。

森の学校ごっこ in とよひら

地域を学ぶ	—	地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
令和元年 10月20日（日） 9:10～15:00	ろうきん森の学校 (ひろしま自然学校)	○朝礼（開校式）とラジオ体操 ○50分×4コマの授業（午前・午後：各2時間） ・参加者が申し込んだ授業（希望）に参加

教室	1時間目（午前）		2時間目（午前）	
①	国語	森を書こう	生活	木の葉のファッションショー
②	図工	森の妖精を作る	生活	フェイスマッサージ
③	英語	私のアメリカ駐在生活	生活	セルフヘアカット
④	生活	アウトドアでアクシデント	体育	空手
⑤	社会	「今吉田」の幕開け	図工	風車でエコな工作
⑥	家庭	藍染体験	家庭	豪快！！男の料理

教室	3時間目（午後）		4時間目（午後）	
①	国語	森の絵本のおはなし	体育	森の中で忍者ごっこ
②	技術	モグラびっくり風車	理科	電気の話
③	国語	文字の不思議	音楽	万代池でミュージカル
④	生活	べんりな風呂敷	図工	森のステンシル
⑤	音楽	森の中でウクレレを弾いてみよう	家庭	自家製手造り味噌
⑥	理科	野鳥もチキンも大好き	家庭	ピザ×10



対象	○豊平地域にお住まいの方（地域外の方も可）
経費	○参加費：500円（弁当代300円，保険料200円，各授業の実費） 講師謝金：0円
連携先	NPO法人ひろしま自然学校，ろうきん森の学校，きたひろネット

問合せ先

北広島町豊平地域づくりセンター
〒731-1711 山県郡北広島町戸谷1113
電話：050-5812-4020 ファクシミリ：0826-83-0033

2 講座設定の理由（学習の目的）

- 少子高齢化で過疎化が進む中、地域の施設や人材を生かして住民が学び合いながら集える場を設定する。
- 地域の住民が先生となり、それぞれの特技を生かすとともにそのノウハウを住民に提供し、「楽しく生きる」ことを通して、地域の活性化を図る。

3 学習目標

- 学校ごっこに参加することを通して、協働によるまちづくりへの関心や、地域で楽しく暮らそうとする意欲を高める。
- 地域に暮らす住民から様々な知識や技術を学び生活への糧にするとともに、自分の特技を地域へ披露したり提供したりしようとする心情を育てる。

4 事前に必要な知識や準備物

- テント、ブルーシート（ろうきん森の学校から借用）
- 各教室の講師となる人材（ボランティア）の発掘と依頼
- 町広報誌やケーブルテレビ等を活用した広報

5 留意点

- 地域へ出向き、日常的に交流しながら講師（ボランティア）を発掘する。
- 町内他地域の行事等と日程が重ならないようにする。

6 成果

- 地域住民同士のふれ合いを通して、ネットワークを築くことができた。
- 地域住民の特技を披露する場を提供することができた。
- 老若男女を問わず地域住民が交流する場を提供することができた。

7 課題

- 会場の使用可能日が限られており、日程変更が難しい。
- 一年あたり複数回の開催が難しい。

8 今後に向けて

- 来年度も同時期に森の学校ごっこを開催できるよう、地域住民と連携を継続する。
- 学習内容について検討（新規・継続）し、地元ボランティアの発掘を行う。

となりの達人に教えてもらおう！

地域を学ぶ	—	地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容（ ）内は参加・材料費
平成31年4月23日（火） 10:00～11:30	豊平地域づくりセンター	「包丁の研ぎ方講座」（無料） ○包丁の研ぎ方を学び、自分の包丁を研ぐ。
令和元年5月31日（金） 10:00～11:30	千代田地域づくりセンター	「アロマワックスサシェ作り講座」（600円） ○アロマの効果や効能を学び、サシェを作る。
6月14日（金） 10:00～11:30	芸北文化ホール （芸北地域づくりセンター）	「ヒンメリ作り講座」（500円） ○地元の藁を使って、多面体の装飾品を作る。
7月9日（火） 10:00～11:30	大朝地域づくりセンター	「スマホ写真の撮り方講座」（無料） ○スマホを使った写真撮影のポイントを学ぶ。
8月2日（金） 10:00～11:30	芸北文化ホール （芸北地域づくりセンター）	「カリグラフィー体験講座」（300円） ○手作りケース入りの飾り文字作品を作る。
9月26日（木） 10:00～11:30	千代田地域づくりセンター	「ハンギングテラリウム講座」（800円） ○多肉植物や石、小物等を飾り、作品を作る。
10月24日（木） 10:00～11:30	大朝地域づくりセンター	「あみもの講座」（300円） ○かぎ針を使った基本的な編み方を学ぶ。
11月15日（金） 10:00～13:00	千代田地域づくりセンター	「料理講座 絵本 de クッキング」（500円） ○絵本に出ている料理を作り、交流する。
12月12日（木） 10:00～11:30		「ガトーショコラ作り講座」（500円） ○お菓子作りのコツを学び、スイーツを作る。
令和2年1月23日（木） 10:00～11:30	大朝地域づくりセンター	「手作りこんにゃく講座」（300円） ○地元産の素材を使い、こんにゃくを作る。
2月14日（金） 10:00～11:30	豊平地域づくりセンター	「みそ作り講座」（1,500円） ○発酵の過程を学びながら味噌を仕込む。
3月18日（水） 10:00～11:30		「紙芝居作り講座」（300円） ○イラストを描き、手作りの紙芝居を作る。



対象	地域住民（他市町からの参加申込も可）
経費	講師料（5,000円 ※交通費含む）、託児謝金（必要に応じて） その他、参加費・材料費等が必要な場合はその都度徴収
連携先	北広島町千代田・大朝・豊平・芸北地域づくりセンター、講師（地域住民）

問合せ先	北広島町千代田地域づくりセンター 〒731-1533 山県郡北広島町有田 1220 電話：050-5812-2249	北広島町大朝地域づくりセンター 〒731-2195 山県郡北広島町大朝 2493 電話：050-5812-3025	北広島町豊平地域づくりセンター 〒731-1711 山県郡北広島町戸谷 1113 電話：050-5812-4020	北広島町芸北地域づくりセンター 〒731-2323 山県郡北広島町小田 10075-54 電話：050-5812-2070
------	---	--	--	--

2 事業設定の理由（事業の目的）

- 地域住民が講師となって自分の特技や趣味を生かし、その技を披露したり伝授したりする場を設けることで、町内4地域の住民同士の交流を図り、ネットワークを構築する。
- 町内4地域づくりセンターが協働して事業を行うことで、地域住民の学びの場づくりや人材・素材の発掘を共有し、効率的な生涯学習・社会教育の振興に寄与する。

3 事業目標

- 自分がこれまでに学んできた知識や技術を地域住民に向けて提供したり、披露したりすることができる。
- 講師の知識や技術から学び合い、多世代や他地域の住民と学びを通じた交流・体験を通してネットワークづくりにつなげる。

4 事前に必要な知識や準備物

- 講師や参加者情報を整理し、年度末に成果と課題を踏まえて年間事業計画を策定し、講師の選定や内容について方向性を確認する。
- 町内の4地域づくりセンターで定期的にミーティングを行い、講師の選定状況や事業内容について連携・確認する。

5 留意点

- 講師選定にあたっては、事業の趣旨（ボランティア的要素が強いこと等）を伝える。
- 毎回託児コーナーを設け、子供連れの保護者が参加しやすい体制を整える。
- 参加者（申込）は、近隣市町等の町外からも可とする。
- 4地域づくりセンターから相互に職員を派遣し、事業の管理・運営にあたる。

6 成果

- 老若男女を問わず、多世代の住民同士が他地域の人や物、資源を知り、交流できた。
- 講師に選ばれることで、地域振興への意欲が向上するとともに、事業に対する意見やアイデアがたくさん聞かれるようになった。
- 町内4地域づくりセンターが協働することで、効率的な事業運営を行うことができた。

7 課題

- 地域住民の中から、講師となる人材を幅広く発掘していく必要がある。
- 地域の課題と住民のニーズの双方を組み合わせ、且つ住民が参加してみたいと思える魅力的な講座を企画すると共に、学んだことを生かし還元する場の充実を図る。
- 町内の全住民に向けて事業を周知するための、多様な広報活動の在り方を検討する。

8 今後に向けて

- チラシだけでなく、町広報紙やケーブルテレビの活用も検討し、多様な手段で広く事業の広報活動を行う。
- 地域の課題と住民のニーズを整理し、双方の課題解決に向けた講師の選定や各回の事業内容について検討し、計画を立てる。
- 講座に参加した住民同士のネットワークを構築し、新たな事業展開へつなげていく。

参考資料・情報

「ひろプロ」マーク

広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」の普及・啓発のため、ロゴマーク及びイメージキャラクターを作成しました。「公民館」等での各種イベントやパンフレット、事業チラシ・ポスター、公民館だより、公民館ホームページ等の印刷物やWEBサイト等において、御活用ください。「ひろプロ」アイコンを使って、プロジェクトを一緒に盛り上げましょう！

「ひろプロ」マーク等のデータは、“広島県内の「公民館」等における取組・実践”に係る広報媒体や資料等に御自由に御活用いただけます。取組実践の事例について、当センターまでぜひ情報をお寄せください。

広島県立生涯学習センターのホームページからダウンロードすることもできます。

広島県立生涯学習センター ホームページ 「ぱれっとひろしま」

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/>

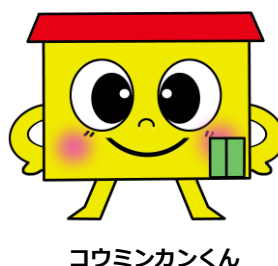
ぱれっとひろしま



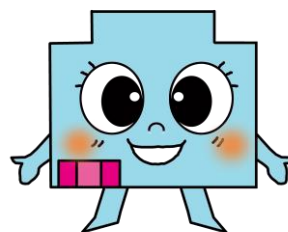
「ひろプロ」マーク



「ひろプロ」イメージキャラクター



コウミンカンくん



コミセンちゃん

「ひろプロ」のアイコン（ロゴマーク・キャラクター）は、社会教育法に規定された“公民館”（コウミンカンくん）とコミュニティセンター等の“公民館類似施設”（コミセンちゃん）の線引きをすることなく、住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点としての地域資源（社会資源）である「公民館」の機能に焦点を当て、住民が主体的・協働的に学びを通じた地域づくりに参画できる社会教育・生涯学習のプロジェクト開発を“オール広島”“オール地域”で目指すものとして、そのイメージを表現したものです。

【分析シート】

選択テーマ

地域（市・町 地区）の概要や関係施策・事業の現状と課題分析

地域の現状・実態 (今の地域)	地域の課題 ▼ 課題解決の方向性 (こんな地域にしたい)		既存（現在・過去）の施策・事業		地域の資源 (ヒト, モノ, コト, カネ…)
	地域課題に関連する 公民館等の施策・事業 (取組名, 内容, 成果・課題)	関連行政・学校・ 民間・団体等の施策・事業 (取組名, 内容, 連携の有無)			

【参考にしたい取組】



地域の現状・課題（今の地域）

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）



取組の概要

- ①
 - ②
 - ③
- ポイント

成果指標（目的の達成度、波及効果）

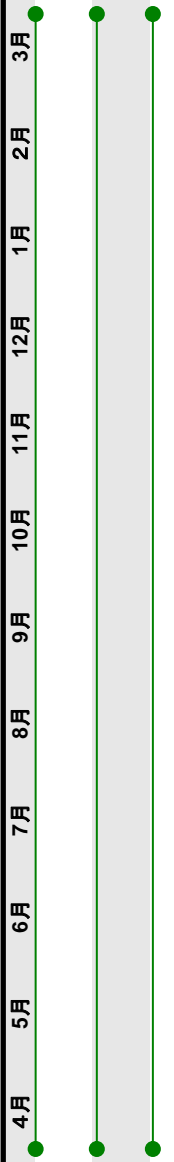
【定量評価】

【定性評価】

実施体制（連携・協力団体等）

発展・継続・関連

運営財源・活動資金





地域の現状・課題（今の地域）

目的（課題解決の方向性・こんな地域にしたい）



取組の概要

- ①
 - ②
 - ③
- ポイント

成果（目的の達成度、波及効果）

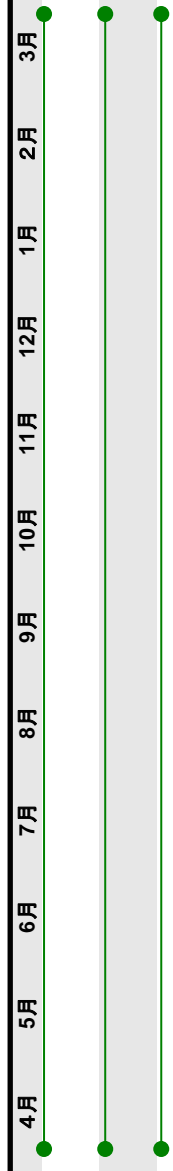
【定量評価】

【定性評価】

実施体制（連携・協力団体等）

運営財源・活動資金

今後の方向性



**令和2年度
広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業
実施要項（案）**

1 趣旨

- (1) 地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である公民館等（※）が、行政（首長部局）や大学・企業・NPO、地域の関係機関・団体等の多様な主体と連携・協働して地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じた地域づくりの活動を促進するための拠点として重要な役割を果たせるよう支援する。
- (2) 住民の主体的・協働的な学びを通じた地域づくりの活動を促進する事業モデルを実証開発し、それぞれの公民館等での活動をコーディネートできる人材（公民館職員等）の育成を図る。
- (3) 上記事業の構築に当たっては、県及び市町の社会教育主事がその役割を発揮し、専門性（有用性）を生かす仕組みを取り入れる。
（※）公民館及び公民館類似施設（コミュニティセンター）等の社会教育関係施設

2 主催

広島県教育委員会（主管：広島県立生涯学習センター）

3 取組内容

(1) 県教育委員会（県立生涯学習センター）の取組

ア 指導者研修の実施

「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」（略称「ひろプロ」、以下「ひろプロ」という。）コーディネーター研修を実施し、「ひろプロ」の企画・調整・運営を務める公民館等職員のコーディネート力の向上を図る。

イ モデル市町の選定

事業の成果・検証を図るため、社会や地域の課題解決に係る講座・事業の取組状況、実施体制や想定される地域課題、専門的な職員の配置状況などを総合的に勘案し、市町の課題やニーズを調整のうえ、モデル市町を2市町程度（原則2年間事業実施）選定する。

ウ 取組の支援

社会教育主事等の専門的な職員が市町を訪問、モデル市町の職員（社会教育主事や公民館等職員）への助言や取組の支援（知事部局等とのコーディネートを含む。）を行う。

エ 「ひろプロ」の普及・促進（調査研究）

モデル市町やその他の地域における取組状況等について調査研究し、その成果をまとめて共有する。また、汎用性のある事業モデルをモデル市町と協働開発し、「『ひろプロ』コーディネーターハンドブック」を作成して研修ツールとしての活用を図る。さらに、取組の成果をホームページや県の広報紙へ掲載するなどして、県民及び県内市町に周知し、新たな参加者層の巻き込み及び取組の普及・啓発等を図る。

オ 広島県公民館連合会との連携

本事業の実施に当たっては、広島県公民館連合会と連携して進める。

(2) モデル市町の取組

ア 事業実施組織（検討チーム）の設置・運営

構成は、公民館等職員（「ひろプロ」コーディネーター研修修了者）、市町職員（社会教育主事及び地域課題に関する担当課職員等）、県立生涯学習センター職員（社会教育主事）、地域住民等とし、次の事項を取り扱う。企画・運営は、公民館等職員と市町職員（社会教育主事）がコーディネートする。

- (ア) 地域住民と行政の協働による解決が可能で、かつ、住民の主体的な参画が期待される地域課題を選定し、課題解決のための具体的方策の実施体制を検討する。
- (イ) 地域課題に関わる県の担当課職員及び県教育委員会の担当課職員等を招聘し、研修会を企画・実施する。
- (ウ) 地域課題の解決に必要な学びを提供するための講師（アドバイザー）を選定し、招聘する。
- (エ) 講師（アドバイザー）による助言や参加者による熟議等とおして、地域住民と行政の協働による課題解決のための事業開発の具体的方策を検討する。

イ 実践

事業実施組織において検討された具体的方策を地域住民と行政が協働して実践する。

※上記における会議・研修会等の実施回数は、実施主体において設定する。また、実行委員会等による実施も可とする。

4 事業経費

(1) 県教育委員会(県立生涯学習センター)

- ・「ひろプロ」コーディネーター研修（県主催）に係る経費
- ・県職員訪問に係る旅費（年回5回×2市町）
- ・講師（アドバイザー）招聘に係る報償費、旅費（年間1回×2市町）

(2) モデル市町

- ・「ひろプロ」実践の取組に係る経費（他事業の助成金活用等を含む。）

5 モデル市町の決定及び事業計画・報告

(1) モデル決定

県立生涯学習センター所長は、市町の課題やニーズ等を調整のうえ、モデル市町について決定し、当該市町教育委員会あてに通知する。

(2) 事業計画

事業を実施するモデル市町は、事業実施前に、「事業計画書（様式第1号）」を県立生涯学習センター所長あてに提出する。

(3) 事業報告

事業を実施したモデル市町は、事業終了後、事業実施年度内に「事業報告書（様式第2号）」を県立生涯学習センター所長あてに提出する。

6 事業の評価・検証

当該年度の事業の成果や課題等に関する・評価・検証を図り、次年度に向けて事業内容を精査する。

7 その他

この要項に定めるもののほか、事業の実施に必要な事項については、別に定める。

附 則

この要項は、決定の日から施行する。

【参考】スケジュール

○平成30年度（準備調整）

- ・～3月 市町の取組状況等に係る調査研究（実践事例収集）
- ・3月 「ひろプロ」コーディネーターハンドブック（試行版）の作成
- ・モデル市町選定に係る事前調整

○令和元年度（試行実施）

- ・4～5月 市町課長等会議，市町訪問，県公民館連合会理事会等で事業説明・周知
- ・7月 「ひろプロ」コーディネーター研修の実施（県内2会場）
- ・8月 「ひろプロ」実施要項の決定，モデル市町決定・通知（2市町）
- ・8月～ モデル市町における検討チームの設置・運営，実施計画提出，事業実践，事業報告提出（1年目）
- ・～3月 「ひろプロ」の取組状況に係る調査研究（令和元年度広島県立生涯学習センター調査研究）
- ・3月 「ひろプロ」コーディネーターハンドブック（令和元年度版）の作成
- ・随時 「ひろプロ」事業に係る広報・情報発信
→試行実施期間の事業の成果・検証を図り，次年度の本格実施に向けて事業内容を整理する。

○令和2年度（本格実施）

- ・4月 モデル市町決定・通知（1年目：2市町，2年目：2市町）
- ・7月 「ひろプロ」コーディネーター研修の実施（県内2会場）
- ・8月～ モデル市町における検討チームの設置・運営，実施計画提出，事業実践，事業報告提出（1年目・2年目）
- ・～3月 「ひろプロ」の取組状況に係る調査研究（令和2年度広島県立生涯学習センター調査研究）
- ・3月 「ひろプロ」コーディネーターハンドブック（令和2年度版）の作成
- ・3月 広島県生涯学習実践研究交流会における成果発表
- ・随時 「ひろプロ」事業に係る広報・情報発信

○令和3年度以降

- ・令和2年度と同じ
- ・「ひろプロ」コーディネーターステップアップ研修の実施等を検討
（コーディネーター力の更なる向上，実践交流等）

広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」 事業計画書

1. 事業名

「 」

2. 事業の実施期間

令和 年 月 日から令和 年 月 日まで

3. 選択テーマ

※単独テーマに該当する場合には、いずれか一つに○を、複数テーマに該当する場合には、主なテーマに◎、関連するテーマに○を付ける。

テーマ	該当の有無
地域の未来像を共有するための学びの場づくり	
地域の人材による家庭教育支援	
地域の人材による地域学校協働活動の推進	
地域の人材による社会的包摂の実現	
地域防災・減災の仕組みづくり	
その他，地域資源を活用した地域課題解決・地域の人材育成	

4. 事業実施組織の構成

①組織の全体構成員

氏名	所属・役職等	備考欄

②事業推進担当社会教育主事（役職が社会教育主事でない場合は事業の中心となる担当職員）

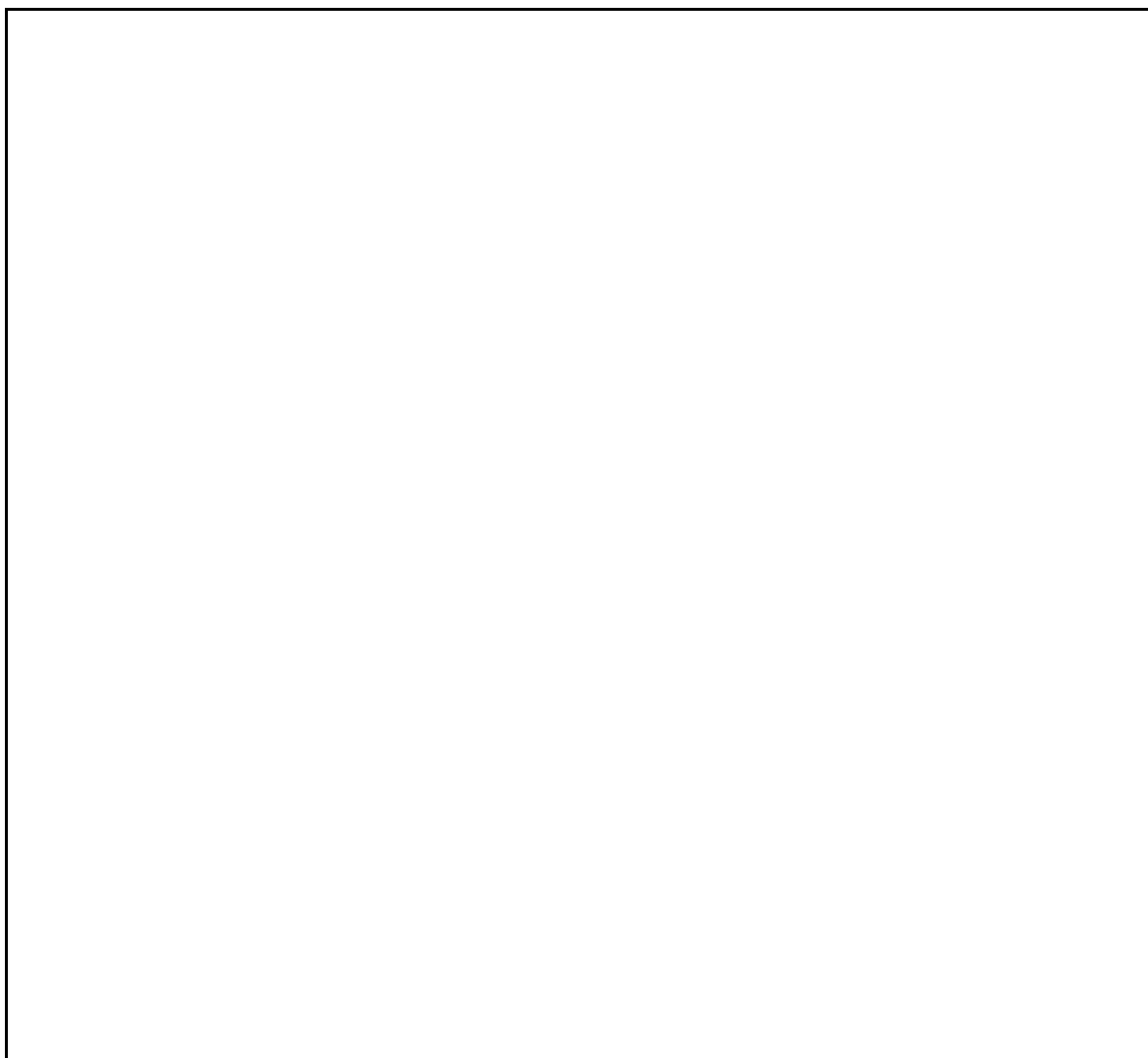
氏名	所属・役職等	社会教育主事 資格の有無

5. 趣旨・目的

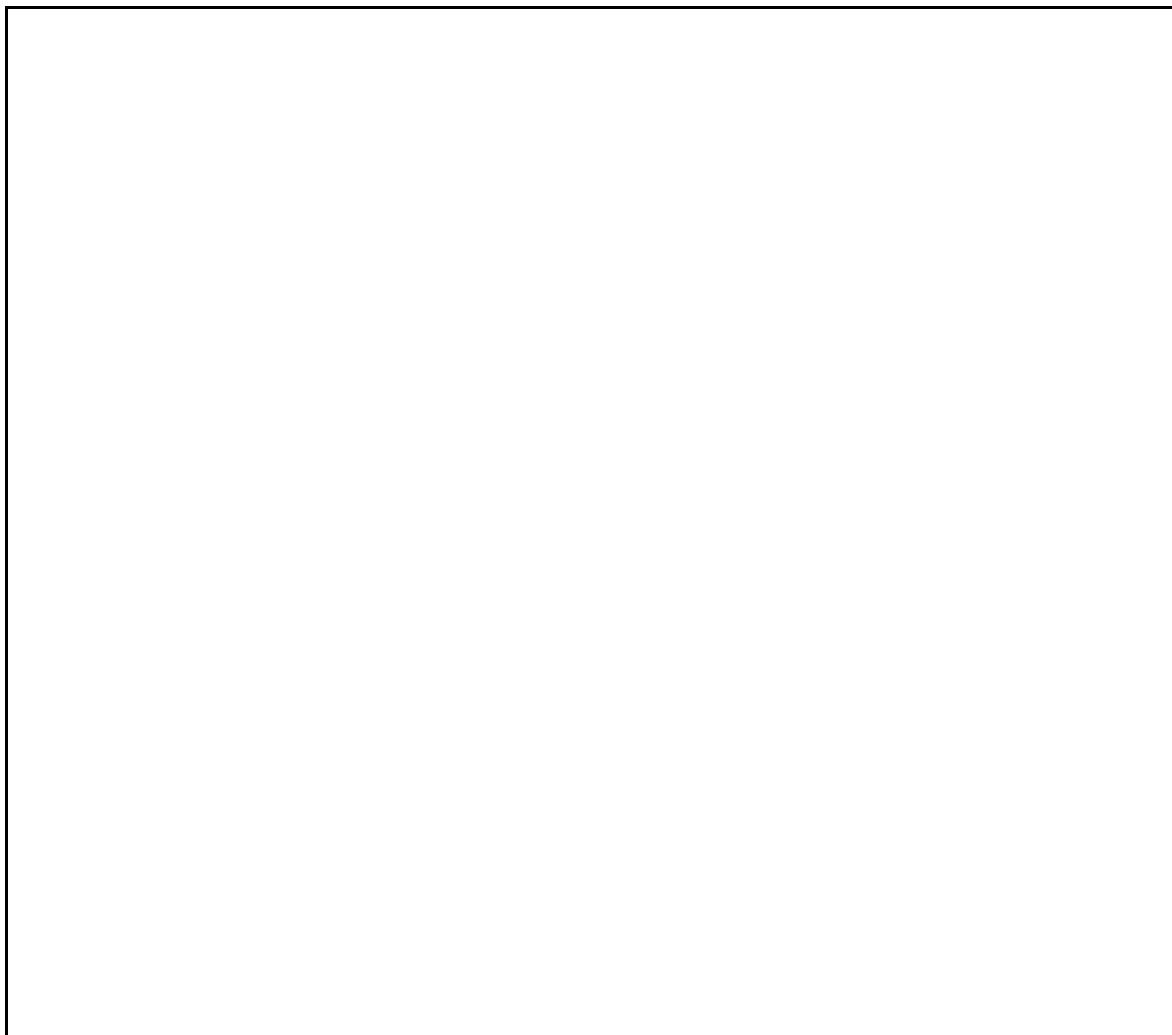
(地域の現状, 解決すべき地域の課題, それに対する解決の取組概要等を記載すること。)



6. 具体的実施内容及び実施方法等



7. 見込まれる成果・効果



8. 実施体制（構成機関・組織等の関係を図示すること。）



9. 実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

10. 評価計画

(評価体制, 評価手法等を成果指標も含め, できるだけ具体的に記載すること。)

--

【以下は、複数年度の実施を予定している場合に作成すること】

11. 次年度以降の内容及び実施方法等

--

調査研究の概要

調査研究の概要

1 テーマ

令和元年度広島県立生涯学習センター調査研究

「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」開発等に関する調査研究

2 趣旨

地域住民にとって最も身近な学習・交流の活動拠点である公民館等が、多様な主体と連携・協働して地域課題に対応した学習機会を提供し、学びを通じた地域課題解決の活動を促進するための拠点として重要な役割を果たせるよう支援することを目的とし、「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」の実証開発及びプロジェクトをコーディネートする人材（公民館職員等）の育成に関する調査研究を行う。

3 内容

- ・ 取組事例の収集・分析
- ・ 「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」のモデル開発
- ・ 成果物の発行

「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」コーディネーターハンドブック

4 実施期間

平成31年4月1日から令和2年3月31日

5 実施体制

令和元年度広島県立生涯学習センター調査研究として、次のメンバーで調査研究・執筆にあたった。

加藤 浩司	広島県立生涯学習センター所長
山川 肖美	広島県立生涯学習センター生涯学習推進マネージャー
毛利 洋子	広島県立生涯学習センター振興課長
松田 愛子	広島県立生涯学習センター振興課 社会教育主事 (◎)
石崎 希	広島県立生涯学習センター振興課 社会教育主事
齋藤 裕磨	広島県立生涯学習センター振興課 社会教育主事

◎筆頭著者

令和元年度広島県立生涯学習センター調査研究

「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」開発等に関する調査研究

「広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』」コーディネーターハンドブック

令和2年3月

ぼれっとひろしま

広島県立生涯学習センター

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目 7-47

TEL 082-248-8848

FAX 082-248-8840

メール sgcshinkou@pref.hiroshima.lg.jp

H P <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/>
